
年 報

令 和 元 年 度

(第21 卷)

長 浜 市 立 湖 北 病 院
介護老人保健施設湖北やすらぎの里



福祉を守るために

地域医療構想の早期実現を！

長浜市病院事業

管理者 野 田 秀 樹

百周年記念式典・記念誌発行など多くの事業、診療報酬の改訂や消費税増税への対応、「地域医療構想」への取り組みなど多忙を極めるなか、ながらく休刊していた年報発行に漕ぎつけることができました。

いま、平成 29 年 4 月からの中期経営計画に沿って事業が進められていますが、この間 2 度の院長交代、ベテラン内科医の退職がありました。しかし不在であった整形外科、皮膚科に常勤医を迎え、長浜病院との間では医師の相互派遣や事務局、薬剤部、看護局、医療技術局での積極的な人事交流が定着しました。病院理念実践のため地域包括ケア病棟開設、中之郷診療所・木之本余呉西浅井地域包括支援センターの運営など積極的事業展開をし、平成 29 年の電子カルテ導入時には長浜病院と画像システムの共有化も進めました。しかし、経営面では診療報酬改定毎に厳しさを増し、二度にわたる消費税増税で二重の困難を背負うことになりましたが改善の方向にあると考えています。

こうした中、2019 年 9 月末、全国の公立・公的病院のうち再編統合に向けて再検証すべき 424 病院が公表され、その中に当院が含まれていました。行政・議会に加え、不安を抱かれた住民への対応に迫われましたが、結果、地域住民と職員の結束と将来構想への思いがより強固にできたと考えています。当院では対応はすでに始まっており「将来構想に係る検討部会」、「将来構想策定委員会」の下、将来に向けたイメージ作りが進んでいます。加えて、少子高齢化、過疎化を先見し、制度・組織を創ってきた歴史を持ちます。滋賀県初の病院併設型老人保健施設の運営、拠点病院としてのへき地診療所支援、訪問看護ステーション等との域内の巡回・訪問診療・看護、また敷地内に広域総合保健医療福祉センターを持つなどシームレスな医療・福祉の連携を目指してきた実績があります。

さらに湖北医療圏では限られた医療資源の中で「地域医療構想」「働き方改革」など重要課題を解決し、「湖北の医療・福祉を最高の状態で維持する」ためにどうあるべきか、関係機関と「長浜市立湖北病院、市立長浜病院、長浜赤十字病院の 3 病院の連携のあり方」が検討され、圏域地域医療構想調整会議で 2025 年を目途とする病院機能の再編イメージ図が了承されました*。そして国の指針の下、関係者合意の上、手を挙げ、重点支援区域選定されるに至りました。

地域の特殊性、各病院の伝統・文化を尊重し、医療資源を最大限活用できる機能的・機動的な再編を目指します。COVID-19 感染症の拡大で計画は遅れるかもしれませんが、多くの難題、困難が待ち受けていると思いますが、時間は限られています。皆さんと一緒に一步一步前進していきたいと思っています。

*【窓 MEDICINE「地域医療構想実現に向けた国による重点支援区域」選定を受けて、全自病協雑誌 2020 (4) ; 59 : 4-6】を参照ください。



令和元年度年報巻頭

長浜市立湖北病院

院長 納 谷 佳 男

令和元年9月に、再編・統合が必要な424の公的病院が厚生労働省から発表され、当院は、その中の一に選定されました。湖北圏域の地域医療構想調整会議の中で、長浜赤十字病院、市立長浜病院、長浜市立湖北病院、セフィロト病院の機能再編の話はすでに進んでおり、一つの高度急性期病院と二つのケアミックス病院、精神科病院の4病院で機能再編を行う事が決定していますが、高度急性期病院と二つのケアミックス病院を経営統合し、一体的に3病院を運営する事が望ましいとしながらも、具体的な進展がないまま経過していることから、早く機能再編をなささいという国からの後押し、意思表示であったと考えます。こうした中、湖北圏域の4病院は重点支援区域に応募し、2020年1月に重点支援区域に選定されました。当院は、へき地医療拠点病院でもあり、当院の存続は地域にとって重要な問題です。国の技術的支援、財政的支援のもと、4病院で湖北圏域の地域医療の新たな枠組みを構築していかなければなりません。

当院においては、地域包括ケアシステムの確立を目標に2014年度より努力して参りました。病院に老健施設を併設し、また、経営母体は異なりますが、特別養護老人ホームも同一敷地内にあります。2014年度には地域包括ケア病棟を開設、2017年11月からは地域包括支援センターを当院地域連携室内に開設し、医療と介護福祉をシームレスに地域の皆様に提供する体制を整え、2019年4月から体制の拡充を図りスタッフを増員しました。

高度急性期医療を受ける期間は人生のごく短期間であり、亜急性期、慢性期の長い期間に良質な医療を提供する事が、地域医療の中で非常に重要なポイントです。当院は、地域の皆様に寄り添い、医療・介護福祉を一体的に提供し、地域に必要とされる存在であり続けるよう努力して参りたいと思います。

これからも関係各位の皆様のご指導、ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

目 次

はじめに

○長浜市病院事業 管理者 野田秀樹

○長浜市立湖北病院 院長 納谷佳男

1. 概要

1 湖北病院・湖北やすらぎの里の現況	1
2 湖北病院・湖北やすらぎの里の沿革	1
3 組織体制図	5

2. 活動状況

○各部門の活動状況

◆診療局	7
内科、小児科、泌尿器科、眼科、歯科口腔外科、整形外科、皮膚科	
◆医療技術局	16
薬剤科、中央検査技術科、放射線技術科、リハビリテーション技術科、 栄養科、機器センター	
◆看護局	25
外来・手術室、A病棟、B病棟、療養病棟、人工透析センター	
・地域包括ケア事業部	45
・健康管理センター	51
◆介護老人保健施設	52
湖北やすらぎの里	

○講習会／研修会への取り組み	55
糖尿病教室、	
湖北やすらぎの里内部研修・外部研修	
○委員会の状況	
○湖北病院	59
褥瘡対策、医療機器安全管理委員会、薬事、手術部運営、輸血療法、	
防火・防災対策、人権教育推進、給食、診療材料選定・S P D運営、	
医療機器等選定、広報、臨床検査精度管理、職員安全衛生、	
医療ガス安全、化学療法検討	
○湖北やすらぎの里	68
3. 経営状況	69
経営収支比較、貸借対照表、決算状況、経営指標、資本的収入および支出	
4. 各種統計	
○湖北病院	75
職員数、各科別延患者数、各科一日平均患者数、地区別患者数、	
診療科別救急患者数、手術件数、臨床検査件数、調剤関連数、	
内視鏡検査件数、放射線検査件数、死亡者数と剖検数、	
一般病棟利用状況、リハビリテーション科利用件数、	
主な購入医療機器および備品、平均在院日数	
○湖北やすらぎの里	80
職員数、月別延療養者数、一日平均療養者数、療養床利用状況	

1 . 概 要

1 湖北病院・湖北やすらぎの里の現況（令和2年3月31日現在）

	所在地	病床・療養床数
湖 北 病 院	滋賀県長浜市木之本町 黒田1221番地	140 床
湖北やすらぎの里		84 床

湖 北 病 院 診 療 科 目	内科・精神科・神経内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・外科・ 整形外科・泌尿器科・皮膚科・小児科・婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・ 歯科口腔外科・麻酔科・放射線科・リハビリテーション科
--------------------	--

2 湖北病院・湖北やすらぎの里の沿革

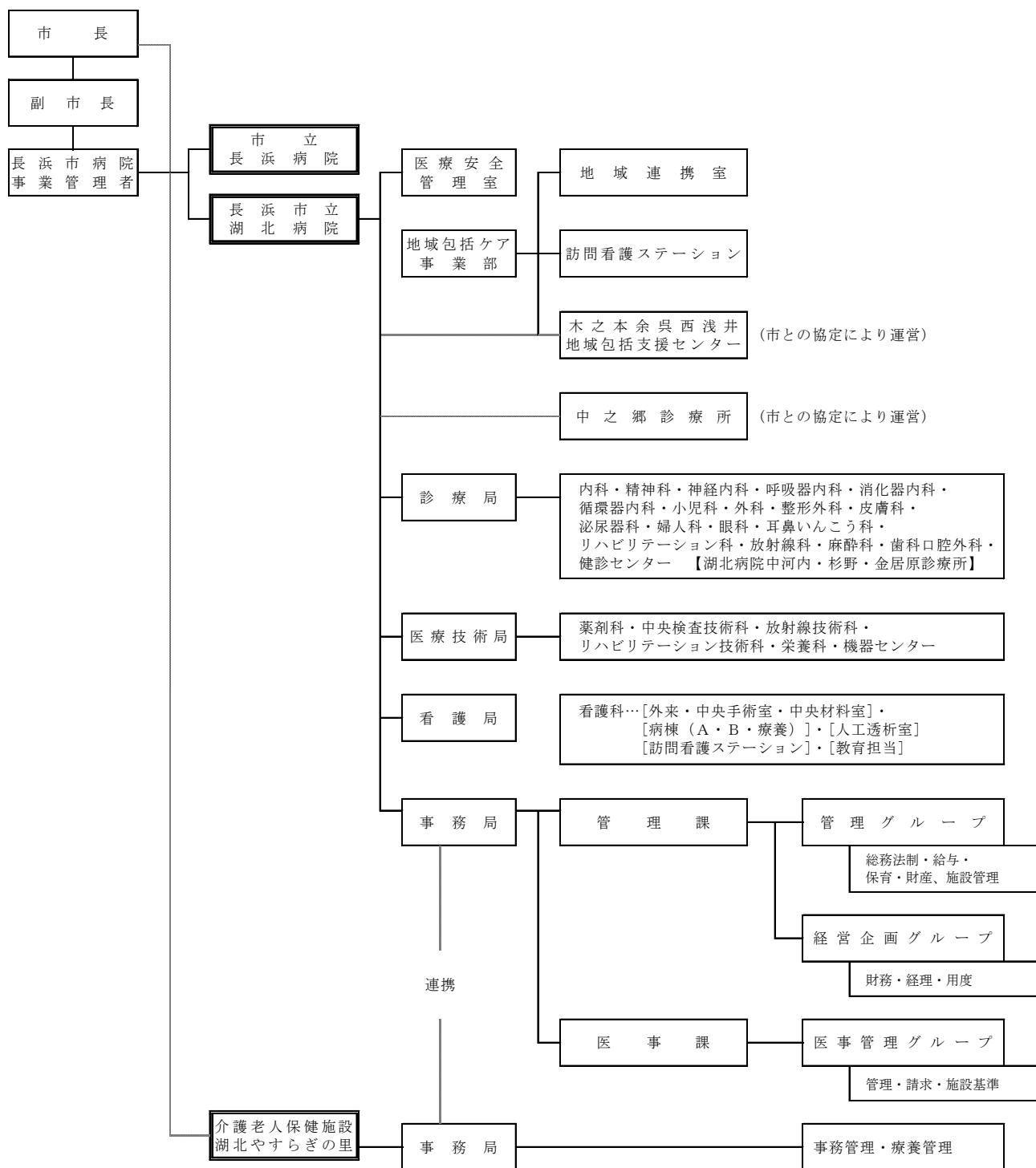
明治42年		富田八郎氏が病院設立の必要性を伊香郡愛郷会々員に呼びかける
明治44年		伊香郡に病院建設の機運が高まり、建設に向けて動き始める
大正2年		病院建築に着手
大正4年	7月15日	「伊香病院」の創設 伊香郡愛郷会（会長 富田八郎氏）の事業として 伊香郡木之本町大字木之本字塔寺の地に病院を創設 院主 富田八郎 院長 横井薫（初代） 医学士 顧問 名古屋好生館病院長 北川乙治郎 医学博士
大正6（1917）年	12月21日	伝染病隔離病舎（箱柳病院）創設 木之本外8ヶ村組合立として、木之本村字箱柳の地に伝染病隔離病舎を開設 管理者 木村 市太郎
昭和18（1943）年	7月22日	日本医療団から伊香病院を解散・移管するよう要請あり
昭和19（1944）年		伊香病院が日本医療団により買収統制される
	11月12日	伊香病院解散式举行
昭和22（1947）年	11月29日	院主 富田八郎逝去（急性肺炎）
昭和24（1949）年	4月30日	日本医療団から病院を買い戻す
	5月1日	「伊香郡国民健康保険団体連合会直営伊香病院」として再開 院長 北嶋精智（第6代） 病床数 一般病床25床 診療科目 内科、外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、物療科
昭和25（1950）年	3月1日	伊香病院高時出張診療所を開設
昭和26（1951）年	8月16日	結核予防法指定医療機関の指定を受ける
昭和27（1952）年	3月1日	入院患者に対し完全給食を開始
	3月26日	伝染病院を伊香病院に併設
	4月8日	伝染病院移転新築 伝染病院を木之本町箱柳から木之本町木之本723番地に新築移転
	8月1日	生活保護法による医療扶助として行う完全給食を実施
昭和28（1953）年	4月1日	旧伝染病院跡を木之本町母子寮に転用
昭和29（1954）年	4月1日	「伊香郡木之本町外12ヶ村組合立伊香病院」に名称変更 管理者 藤田甚左エ門 構成町村は次のとおり 木之本町、杉野村、高時村、北富永村、南富永村、古保利村、七郷村、伊香具村、余呉村、丹生村、片岡村、塩津村、永原村（以上13町村）

昭和 30 (1955) 年	8 月 5 日	「伊香郡町村組合立伊香病院」に名称変更 管理者 西島由太郎 (高月町長)
昭和 32 (1957) 年	7 月 15 日	健康保険法による保険医療機関の指定を受ける
昭和 33 (1958) 年	10 月 1 日	基準給食設備の承認を受ける
昭和 37 (1962) 年	3 月 1 日	病院本館の改築および増床
	10 月 1 日	伊香病院高時診療所を廃止
昭和 40 (1965) 年	5 月 25 日	「伊香郡町村組合立伊香病院」を「伊香郡病院組合伊香病院」 に名称変更
	12 月 1 日	基準看護 (2 類)、基準寝具の承認を受ける
	12 月 7 日	障害年金再診医療機関の指定を受ける
昭和 44 (1969) 年	4 月 1 日	労災保険指定医療機関の指定を受ける
	6 月 1 日	健康保険医療機関の指定を受ける
昭和 45 (1970) 年	11 月 1 日	病院本館等増改築
昭和 46 (1971) 年	8 月 11 日	児童福祉施設 (助産施設) の設置認定を受ける
昭和 47 (1972) 年	4 月 1 日	医師団総辞職のため病院閉鎖 院長代理 今村久郎 (産婦人科医師)
	8 月 16 日	新院長 馬場道夫 (第 10 代) を迎え再開準備
昭和 48 (1973) 年	4 月 1 日	診療再開
昭和 49 (1974) 年	4 月 1 日	放射線・病理組織検査棟の新築および医療機器の整備
	5 月 15 日	外科病棟および整形外科外来診療室の新築 人工透析 (2 床) の開設
	10 月 1 日	国民健康保険親元病院の指定を受ける
昭和 50 (1975) 年	1 月 1 日	身体障害者福祉法第 19 条の 2 の規定による更生医療を担当す る医療機関の指定を受ける 担当すべき医療の種類 腎臓に関する医療
	12 月 5 日	へき地中核病院の指定を受ける
昭和 51 (1976) 年	4 月 26 日	病棟増築 伝染病隔離病舎を解体 (伝病舎は結核病棟へ移設) し、その 跡地にへき地中核病院施設整備補助金を主要財源として病棟 (第 3 病棟) を新築
	11 月 22 日	保助看学校養成所指定規則第 7 条第 1 項第 3 号による成人看 護の法定臨床実習生の受入れ開始
	12 月 1 日	身体障害運動療法の施設基準に係る承認
昭和 52 (1977) 年	9 月 1 日	基準看護 (特 1 類) の承認を受ける (ただし結核病棟は従来 どおり 2 類看護)
	11 月 1 日	伊香病院中河内診療所および伊香病院古保利診療所につい て、保険医療機関として正式承認を受ける
昭和 53 (1978) 年	1 月 31 日	排水処理施設の整備
	7 月 7 日	病院移転改築について検討はじまる
昭和 54 (1979) 年	4 月 5 日	滋賀県立特別養護老人ホーム「福良荘」への出張診療を開始
昭和 55 (1980) 年	4 月 1 日	西浅井町塩津診療所への出張診療を開始
昭和 56 (1981) 年	9 月 10 日	伊香病院移転改築工事着工
	10 月 1 日	救急病院等を定める省令第 1 条の規定に基づく救急病院の指 定を受ける
昭和 57 (1982) 年	11 月 30 日	新病院新築工事竣工
昭和 58 (1983) 年	3 月 1 日	「伊香郡病院組合立湖北総合病院」と名称変更して開院 診療科目 内科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器 科、小児科、外科、肛門科、整形外科、形成外 科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦 人科、眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、理学診 療科、放射線科、歯科 計 21

		病床数	一般病棟	200
		伝染病棟	10	
		結核病棟	10	
		計	220 床	
		敷地内にバス停を設置		
	11 月 30 日	旧病院第 3 病棟を用途変更し、看護婦宿舎として改修		
昭和 60 (1985) 年	7 月 15 日	病院創立 70 周年記念式典を挙行		
昭和 63 (1988) 年	7 月 4 日	病院併設型老人保健施設、その他増改築工事着工		
昭和 64 (1989) 年	3 月 25 日	老人保健施設、その他増改築工事竣工		
平成元年		老人保健施設 (5 階に設置)		
		理学作業療法室 (1 階に増設)		
	4 月 1 日	老人保健施設「湖北やすらぎの里」開所 (名称を一般募集し、「湖北やすらぎの里」と選定される)		
	7 月 31 日	老人保健施設に特別浴室およびデイケアルームを追加増設		
	12 月 1 日	理学診療科作業療法施設の承認を受ける		
平成 5 (1993) 年	4 月 29 日	馬場道夫院長 藍綬褒章受賞		
	7 月 1 日	週休 2 日制導入 (水・日曜日休診閉庁)		
	10 月 1 日	心身障害児通園事業の移管 (伊香郡心身障害児地域療育事業 運営協議会より) を受ける		
	12 月 6 日	伊香郡広域総合保健医療福祉センター起工式		
平成 6 (1994) 年	9 月 14 日	放射線科および内視鏡室拡張工事起工式		
平成 7 (1995) 年	3 月 15 日	放射線科および内視鏡室拡張工事竣工		
	4 月 1 日	伊香郡広域総合保健医療福祉センター開所		
	5 月 28 日	馬場道夫助役 逝去		
平成 8 (1996) 年	9 月 19 日	金居原巡回診療所開所式 (10 月 4 日から診療開始、木之本町から管理委託を受ける)		
平成 10 (1998) 年	9 月 30 日	古保利診療所廃止		
	12 月 10 日	結核病棟 (10 床) 廃止		
平成 11 (1999) 年	3 月 31 日	伝染病棟 (10 床) 廃止		
	8 月 1 日	一般病床 205 床を 200 床に変更 介護認定審査会事務室の設置		
平成 12 (2000) 年	3 月 1 日	一般病床 200 床を 190 床に変更 (うち療養型 35 床) 訪問看護ステーションの設置		
平成 15 (2003) 年	11 月 30 日	湖北総合病院託児所「ひまわり園」新築工事竣工		
平成 16 (2004) 年	3 月 31 日	「伊香の里」デイサービスセンター等増改修工事竣工		
平成 17 (2005) 年	5 月 20 日	湖北総合病院増改築工事着工		
平成 18 (2006) 年	3 月 31 日	湖北総合病院増築棟竣工 2・3 階=96 床 1 階=人工透析センター・厨房等		
	4 月 1 日	オーダーリングシステム導入		
	5 月 31 日	湖北総合病院増築工事 (外溝および渡り廊下) 竣工		
	6 月 20 日	健診センター業務開始 新病棟・厨房施設共用開始		
平成 19 (2007) 年	2 月 28 日	病院増改築工事完了 共用開始		
平成 21 (2009) 年	1 月 31 日	湖北総合病院改革プラン公表		
	3 月 3 日	長浜市および東浅井郡・伊香郡 6 町合併協定調印式		
	4 月 13 日	伊香郡病院組合運営協議会開催 福祉施設事業の経営形態を「公設民営」とし、指定管理者制度を導入することに決定		
	9 月 30 日	介護認定審査会事務および障害児通園 (デイサービス) 事業を移管する		
	12 月 15 日	病院本館 4 階改修工事完了		

平成 22 (2010) 年	1 月 1 日	1 市 6 町合併により新長浜市が誕生し「長浜市立湖北病院」に名称変更
	4 月 1 日	地方公営企業法の全部適用を開始（長浜市病院事業） 一般病床 45 床(旧 C 病棟)を介護老人保健施設に転換し、介護老人保健施設「湖北やすらぎの里」を 30 床から 84 床に増床
平成 24 (2012) 年	3 月 26 日	長浜市病院事業改革プラン「改訂版」公表
平成 26 (2014) 年	10 月 1 日	一般病床 96 床のうち、48 床を地域包括ケア病棟に移行
平成 27 (2015) 年	10 月 14 日	創立 100 周年記念式典挙行
平成 30 (2018) 年	4 月 1 日	中之郷診療所の運営開始
平成 31 (2019) 年	1 月	地域包括支援センターの運営開始
	3 月 31 日	病床数を 153 床から 140 床（一般病床 83 床、療養病床 57 床）に変更

3 組織体制図（令和元年度）



2. 活動状況

○各部門の活動状況

◆ 診療局

内科

副 院 長	富樫弘一（平成 15 年 4 月～）	診 療 局 長	清水真也（平成 26 年 7 月～）
医 師	山之内義尚（平成 27 年 4 月～）	医 師	辻本健児（平成 27 年 4 月～）
医 師	八坂亜季（平成 30 年 4 月～）	医 師	渡辺舞（平成 30 年 4 月～）
医 師	森川淳一郎（平成 14 年 4 月～）		

■ 今年度のトピックス

胃・大腸・肝・胆道疾患などの消化器疾患、循環器疾患、脳卒中、呼吸器疾患、血液疾患、腎臓・内分泌・代謝疾患をはじめ一般内科診療を行っています。

■ 業務実績

消化器内科、糖尿病診療などは一般診療から専門的医療まで当院で行い、救急や循環器、血液疾患では長浜の 2 病院と連携して診療を行っています。

外来患者数と急性期入院患者数は大きな変化はありませんが、介護を要する高齢の入院患者数が次第に増えており、退院調整を要することが多くあります。地域包括ケア病棟や療養病棟へ転棟される場合も多く、在宅へ退院される場合は介護支援を行っています。専門医の退職に伴い、血液疾患、在宅医療に関しては、やや縮小傾向となっています。

消化器：上部・下部内視鏡診断及びポリペクトミー等の治療や、胃癌・大腸癌などの消化器癌の診療を行っています。早期の癌では、上部下部消化管ともに内視鏡的粘膜切開剥離法を行い、肝胆膵の診療、ERCP・胆石除去・ドレナージなども行っています。また超音波内視鏡などの最新機器も完備し、より最新の診断治療を目指しています。本年度件数は約 2300 件と、安定した検査件数を行っております。消化器内科専攻希望の若い先生も赴任され、益々の充実を目指してまいります。外科的治療を要する場合は今まで通り長浜の 2 病院と連携しています。肝疾患では非常勤の専門医が診療しています。

循環器：心臓超音波検査・24 時間心電図などによる診断を行い、高血圧症、不整脈、心不全などの治療を行っています。急性虚血性心疾患、外科的治療の必要な心・血管疾患などの症例では市立長浜病院へ紹介させていただきます。

糖尿病：糖尿病、脂質異常症・肥満などの生活習慣病を持った患者様の、外来あるいは入院での食事・運動などの指導と薬物治療を行っています。糖尿病教室や看護指導、クリティカルパスを用いた入院コースも行っています。

血液病：貧血・血小板減少・リンパ節腫脹などの検査と治療、高齢者の血液疾患の治療などを行ってききましたが、平成 30 年 10 月末に田中前院長が退任されたため、現在は病状の安定した患者様のみを外来にて経過観察させていただいています。新規発症患者や病状が悪化した患者様、また放射線療法・幹細胞移植が必要な場合には、専門的診療が必要な場合などは、市立長浜病院、大学病院などと連携し診療します。

救 急：高齢者の心不全や肺炎の症例が増加しています、あらゆる疾患で可能な限り原則常時受け入れています。脳卒中や心筋梗塞等では、症例により最初から長浜の 2 病院へ搬送していただき、高度医療の必要な症例では転送させていただきます。

■ 評価

あらゆる年齢の種々の疾患に対応し診療を行っていますが、特に高齢の慢性疾患症例が増加している。消化器と糖尿病では専門的診療を行っており、慢性腎臓病では腎臓内科（泌尿器科）と連携し初期から透析期までの診療・管理を行っています。循環器や他の疾患診療でも最新の知見に基づき診療を行い、生活の管理・指導を行っています。ただし専門医師の退職に伴い、血液疾患や在宅医療については、縮小方向となっています。

小児科

副院長（部長） 東野克巳 （平成 26 年 4 月～）

■ 業務実績

外来診療体制は平成 30 年度から変更ありません。月・火・金曜日午前が、東野医師、木曜日は、（午前）非常勤の岩瀬亜希子医師、（午後）安倍義明医師の担当により一般小児科診療を行いました。土曜日は前年度より引き続き、長浜赤十字病院からの診療支援を受けました。年間の総述べ外来患者数は 1,738 人でした。

予防接種（外来）業務は、毎月一定数の乳幼児予防接種の受託があります。成人の予防接種（海外渡航前など）についても、小児科外来で実施しています。今年度は総述べ 864 回接種を行いました。

小児神経科専門外来は、月 2 回、前滋賀医科大学小児科学講座教授竹内義博医師の担当で、毎回 46 名程度の外来受診がありました。

■ 評価

（地域の）少子恒例化に伴う小児科世代（こども総数）の減少および予防接種の啓蒙推進による感染症症例の減少により、小児科外来患者数は減少の方向です。例年、季節による受診者数の変動がありますが、年度後半からの COVID-19 の影響と冬季のインフルエンザ患者の減少により、年間の総受診者数の減少の要因となりました。1 外来あたり 3～8 名程度の診療規模となっています。

■ その他

【乳幼児健診】

市保健センター（健康推進課）より委託の、乳幼児健診（4 か月児健診、10 か月児健診など）に年間 30 回出動しました。

【学校保健】

よご小中学校の学校医、余呉認定こども園の嘱託医を受託しています。

泌尿器科

院長・部長 納谷 佳男（泌尿器腹腔鏡技術認定医・がん治療認定医 / 平成 29 年 7 月～）

顧問 伊達 成基（昭和 62 年 6 月～）

医師 金子真里南（平成 29 年 2 月～）

非常勤医師 森 優（腎臓病専門医、透析専門医）、林 一誠（透析専門医）、他に京都府立医大泌尿器科より非常勤 2 名

■ 業務実績

泌尿器科手術件数 198 件

内 容	件数
陰嚢水腫手術（その他）	1
経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用のもの）	3
経尿道的電気凝固術	4
経尿道的尿管ステント抜去術	2
経尿道的尿管ステント留置術	12
経尿道的尿管狭窄拡張術	6
経尿道的尿路結石除去術（その他のもの）	1
経尿道的尿路結石除去術（レーザーによるもの）	14
経皮的シャント拡張術・血栓除去術	70
経皮的尿路結石除去術（経皮的腎瘻造設術を含む）	1
血管移植術（その他の動脈）	1
血管移植術、バイパス移植術（その他の動脈）	8
血管結紮術（その他のもの）	1
精巣悪性腫瘍手術	1
精巣外傷手術（陰嚢内血腫除去術）	1
精巣上体摘出術	1
精巣摘出術	1
前立腺悪性腫瘍手術	2
創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの（長径 5 cm 未満））	4
創傷処理（筋肉、臓器に達するもの（長径 10 cm 以上）（その他のもの））	3
創傷処理（筋肉、臓器に達するもの（長径 5 cm 未満））	1
創傷処理（筋肉、臓器に達するもの（長径 5 cm 以上 10 cm 未満））	2
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（一連につき）	3
中心静脈注射用植込型カテーテル設置（頭頸部その他に設置した場合）	2
動脈形成術、吻合術（その他の動脈）	2
内シャント設置術	10
尿失禁手術（その他のもの）	1
尿道ステント前立腺部尿道拡張術	1
尿道狭窄拡張術（尿道バルーンカテーテル）	2
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	1
腹腔鏡下腎嚢胞切除縮小術	1

腹腔鏡下腎部分切除術	1
腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術	1
連続携帯式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術	1
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（その他のもの）	1
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用のもの）	21
膀胱悪性腫瘍手術（全摘（回腸又は結腸導管を利用して尿路変更を行うもの））	1
膀胱結石摘出術（経尿道的手術）	1
膀胱内凝血除去術	1
膀胱瘻造設術	1
その他	6

■ 評価

泌尿器科常勤医 3 人と非常勤医 4 人で、泌尿器科全般及び透析管理を業務としています。納谷医師が 2017 年 7 月に着任、2018 年 11 月から病院長に就任しております。納谷医師の着任以来、腹腔鏡手術が増えています。腹腔鏡下の腎生検や腹膜透析カテーテル整復再固定術など他施設では行っていない手術も行なっています。透析患者のバスキュラーアクセス（シャント）トラブルに対する経皮的血管拡張術も他院からの紹介も増え、件数は増加しております。腎癌、尿路上皮癌に対する分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤投与や化学療法、去勢抵抗性前立腺癌に対する化学療法も施行しております。筋層浸潤性膀胱癌に対する膀胱温存療法（化学放射線療法と Radical TUR 併用）にも取り組んでおります。腎・尿管結石に対するレーザー砕石器による内視鏡治療、体外衝撃波結石破碎術も行っています。珊瑚状腎結石に対し経皮的腎結石碎石術と経尿道的尿路結石碎石術を同時に施行し、良好な成績を得ています。腎臓病専門医である森医師を中心に慢性腎臓病疾患の治療も行っています。長浜市北部地域唯一の透析施設として、慢性腎不全に対する透析治療も行っています。

学会活動として、日本泌尿器科学会総会、日本自治体病院学会、日本透析医学会、日本アンドロロジー学会、全日本鍼灸学会などで学会発表を行いました。また、2 月には滋賀県臨床検査学会で納谷院長が特別講演を行いました。

眼 科

部 長 中村 貴士 （平成 23 年 4 月～ ）

■ 業務実績

平成 31 年 4 月より令和 2 年 3 月までについては外来部門の総診療報酬は 3200 万円程度、また入院部門においての総診療報酬は白内障手術が合計で 55～60 件行った関係で 1300 万円程度となっています。なお当科では加齢性黄斑変性や糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞に伴う黄斑浮腫に対する抗 V E G F 療法も開始しており元来強みとしていた神経眼科の診療に加えて診療に厚みが出てきたと思われます。現在はコロナの影響で白内障の手術は中断していますが、できるだけ早期に再開し、さらに診療に厚みを加えたいと思っています。

歯科口腔外科

部 長 目片 久隆 (平成 14 年 4 月～)

■ 業務実績

令和元年度外来・入院患者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
外来患者数	401	412	423	434	443	346	381	479	440	422	437	470	5,088	424.0
入院患者数	5	11	2	14	8	5	6	26	12	8	22	14	133	11.1

長浜市保険事業（乳幼児健診）への出動

湖北歯科医師会の公衆衛生委員会に所属して活動に参加

■ 評価

近医歯科医療機関からの紹介を含めて、骨粗鬆症の投薬中・糖尿病・透析中・抗血栓薬の服用中などのリスクを有する患者に対する抜歯処置を入院下で安全に行えるよう取り組んでいます。

嚥下障害患者の診察（スクリーニング）や検査（嚥下造影検査）を行い、カンファレンスへの出席を通して嚥下チームの活動に協力しています。

令和元年 12 月より NST に参加し、カンファレンスへの出席や病棟回診を行っています。

近隣住民への歯科医療サービス充実の為に訪問歯科診療を行っています。

■ カンファレンス等

科内カンファレンスは必要に応じて適宜開催しています。

嚥下カンファレンスに毎週火曜日午後に参加しています。

NSTカンファレンスに毎週金曜日午後に参加しています。

9 月 6 日-7 日に新潟県の朱鷺メッセにて開催の日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会へ参加しました。

10 月 4 日-5 日に長崎県の長崎ブリックホールにて開催の国保地域医療学会へ参加しました。

整形外科

部 長 朝倉 透 (平成 29 年 1 月～)

■ トピックス

平成 29 年 1 月より常勤 1 名体制を復活させ、令和元年度も体制を維持しております。
外来診療は、年間を通じて休診日ゼロにて継続しております。

入院診療も再開後 3 年目を迎え、大腿骨頸部骨折・転子部骨折に対する骨接合の手術を継続しております。

■ 業務実績

常勤医による入院診療は、大腿骨転子部骨折・頸部骨折の手術や脊椎圧迫骨折の治療を行っております。地域包括ケア病棟を中心として入院治療を行い、令和元年度は 115 名の入院患者の診療を行いました。

手術は大腿骨頸部骨折と転子部骨折の骨接合を平成 29 年 2 月より再開し、令和元年度は年間 23 件の骨接合術を施行しました。

■ 評価

地域の特性である高齢者の骨折治療と、骨折予防のための骨粗鬆症治療を中心として、常勤医体制を絶やさぬように精進して参ります。

皮膚科

部 長 齋藤卓也（平成 29 年 4 月～）

トピックス

平成 29 年 4 月より常勤 1 名体制を復活させました。入院と手術のできる病院皮膚科を復活しました。

業務実績

以下の内容の手術件数を行いました。

令和元年度手術件数（皮膚科）

内 容	件数
陥入爪手術（簡単なもの）	7
創傷処理（筋肉、臓器に達しないもの（長径 5 cm 未満））	10
皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径 3 cm 以上， 6 cm 未満）	1
皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径 3 cm 未満）	3
皮膚，皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径 2 cm 未満）	5
皮膚，皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径 3 cm 未満）	8
皮膚腫瘍摘出術（露出部）（長径 2 cm 未満）	6
皮膚腫瘍摘出術（露出部以外）（長径 3 cm 未満）	8
皮膚切開術（長径 10 cm 以上， 20 cm 未満）	13
皮膚切開術（長径 10 cm 未満）	11
合 計	72

以下の月別の入院件数がありました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院患者数	28	31	101	55	76	64	8	2	38	55	24	38	520

評価

地域で入院と手術を受けられる病院皮膚科を絶やさぬように精進して参ります。

◆ 医療技術局

医療技術局長 北川裕之

■ 概要

医療技術局 各科職員は互いの専門技術を尊重し、協働連携して湖北病院の理念「地域住民のための病院づくりを推進し、地域包括ケアを実践します」に基づき、地域住民に信頼される医療サービスを提供することを目標とします。

令和元年4月 リハビリテーション科2名、薬剤科1名の新規採用者と検査科1名（市立長浜病院）からの異動者を迎え入れ、医療技術局 8科（検査、歯科、放射線、薬剤、リハビリ、栄養、機器センター、眼科）正規職員43名、臨時職員5名の計48名で、それぞれの専門職として他職種と協働連携し業務、活動に取組みました。

■ 実績

①医療技術局会

月1回 年12回 医療技術局会の開催：

医療技術局職員として情報を共有し、課題に対し協議、提案、対応を図りました。

②出前健康セミナー開催（本年度16テーマ準備）

「地域住民皆様の健康づくりの手助けをするとともに、ふれあいを通じ病院事業を広くアピールをしていく」

【令和元年度12回開催】 参加：・地域住民 531人 ・職員 40人

・6/5 第69回、・6/12 第70回、・7/17 第71回、・8/3 第72回、・8/7 第73・74回、
・9/11 第75回、・9/29 第76回、・9/29 第77回、・10/20 第78・79回、
・11/17 第80回 (*10/13 予定 台風にて中止)

③採用者オリエンテーション実施（4名）

④各職種の専門性を活かし ICT、NST、訪問歯科診療、covid-19 対応等において協働連携を図りました。

⑤医療技術局 各科の課題、業務改善、人事評価制度、働き方改革等への取組。

・11/17 滋賀県原子力災害医療訓練 12名参加

⑥主な研修活動

・市立長浜病院医療技術局との合同研修会・・・27名参加

*発表：・栄養科 中川 管理栄養士 ・リハビリテーション科 中山 作業療法士

・滋賀県国保地域医療学会 4名参加

・滋賀県病院大会 3名参加

他、各研修会に参加。

■ 評価

病院理念「地域住民のための病院づくりを推進し、地域包括ケアを実践します」を医療技術局 各科全職員の共通認識とし、互いに協働連携し地域医療サービスの向上を目指した対応を進めることができました。また、出前健康セミナーも16テーマに増やすことができ、各科とも専門職としての新たな取り組みや専門職としてのPR活動、研修活動を充実させる事が出来ました。次年度はcovid-19への対応のなか、病院目標>局の目標>科の目標>個人の目標と、医療技術局としてもそれぞれの目標達成に向け協働連携し対応を図って行きます。また、出前健康セミナーにおいても、セミナー終了後にアンケート調査を行い、地域住民の皆様のニーズを把握し、出前健康セミナーがより充実したものになるように取組みます。

薬剤科

医療技術局長兼薬剤科理事 北川裕之

■ 概要

令和元年度も薬剤師 8 名と薬剤補助 1 名の体制で業務に取り組みました。「薬剤師がより主体的に、薬剤に関わる業務に責任を持ち、適正な医療サービスの提供を行う」を行動目標とし、入外における病院薬剤師業務の充実、診療報酬改定への取組、各診療所の業務等、薬剤業務の見直しに取り組みました。

1. 医薬品の管理・供給 2. 病棟業務の実施 3. 薬剤管理指導業務の実施 4. 地域との連携、研修 5. 医療安全・医薬品安全、感染対策、NST 等の院内の委員会活動や地域との連携活動、研修活動についても継続的に取組みを行いました。（下半期、薬剤師 1 名欠員）

■ 業務実績

①調剤関連実績

令和元年度	枚数・件数	備 考
1. 院内処方箋枚数（外来）	2,800 枚	前年比率：92.5% ↓
2. 院内処方箋枚数（入院）	18,332 枚	前年比率：107.4% ↑
3. 老健-処方箋枚数	1,520 枚	前年比率：85.4% ↓
4. 中之郷診療所（2018.4 月より）	3,119 枚	前年比率：94.6% ↓
5. 院外処方箋枚数	42,473 枚	（院外処方箋発行率：93.8%）
6. 注射箋枚数（入院）	26,525 枚	前年比率：124.9% ↑↑
7. TPN ミキシング件数	2,063 件	前年比率：121.2% ↑↑
8. 化学療法件数（整形 含む）	216 件	前年比率：124.9% ↑↑

②指導関連実績

令和元年度	人数・回数・件数	備 考
1. 指導人数	2,344 人	前年比率：109.5% ↑
2. 指導回数	4,337, 回	前年比率：101.0% ↑
3. 薬剤管理指導算定件数	3,174 件	前年比率：114.3% ↑
4. 退院時指導件数	522 件	前年比率：136.3% ↑↑
5. 病棟薬剤業務算定件数	2,786 件	前年比率：105.8% ↑
6. 薬剤総合評価調整加算件数	25 件	前年比率：83.3% ↓

③医薬品管理業務：計画的な医薬品管理のもと、採用薬の見直し、後発医薬品への切替、期限管理、配置薬の適正化、医薬品情報の収集、発信。

*後発薬数量シェア：・院内 90.5% （令和元年度 3 月実績）

各診療所：・杉野 95.0% ・金居原 100% ・中河内 100% ・中之郷 93.8%

④研修活動等 実績：県病薬研修会、県病薬学術大会、がん薬物療法セミナー、日病薬近畿学術大会、中小病院薬剤師セミナー、専門薬剤師セミナー、薬薬連携研修会、出前健康セミナー開催、原子力防災 安定ヨウ素剤の説明等。

⑤その他：院外処方せん疑義照会プロトコルの運用、一般名処方箋の発行、人事評価制度、働き方改革への対応 等。

■ 評価

本年度も、医薬品の管理、供給、調剤などベースとなる基本業務の効率的な運用に努めました。また、病院薬剤師として病棟での薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務への取組など適正な患者サービス、他職種の業務負担の軽減、入外での後発医薬品の使用推進、ポリファーマシー対応への取組等についても計画的に進める事が出来ました。次年度においても更なる業務の見直し、効率的な業務展開を図り、内外において、チーム医療の中での病院薬剤師として、より安全でより良い医療サービスの提供ができるよう業務対応を図って行きます。

中央検査技術科

技 師 長 坪 井 房 幸

■ 概要

令和2年3月で1名が定年退職となるため、長浜病院より1名異動し、一般検査と技師長職の引継ぎを行いました。

医療法の一部改正に伴い、標準作業書・試薬管理台帳・作業日誌等が義務化されるため各書類の作成をしました。

■ 業務実績

○生化学・免疫検査部門

臨床側からの要望を受け、いくつかの新規検査項目や外注検査項目を追加し、電子カルテ上に反映させました。

○生理検査部門

2名での心臓エコー検査が可能となり、担当者不在時をなくしました。

来年度に更新予定のABI検査機器、肺機能検査機器、超音波検査機器を検討しました。

○細菌検査部門

血液培養装置の更新を行い、より精度高く敗血症の診断が行えるようになりました。

1月より、新型コロナウイルスの流行が始まり、感染管理を含め対策に迫られました。

湖北地区3病院による感染対策合同カンファレンスに参加し、保健所とも連携し、湖北地域の新型コロナウイルスを含めた感染症の情報交換を行いました。

○輸血、血液検査部門

標準作業書・試薬管理台帳・作業日誌等の整備をしました。

輸血療法委員会での働きかけにより、血液廃棄率を下げました。

○一般検査部門

標準作業書・試薬管理台帳・作業日誌等の整備をしました。

結果報告の標準化に取り組みました。

■ 評価

長浜病院より1名異動し定年退職者の検査技術、委員会、管理業務等の引継ぎを行いました。

インフルエンザの院内感染による死亡例を受け、ICTと協力し研修会を開催し、病院職員の教育を行いました。また1月より世界的に流行が始まった新型コロナウイルス感染症の対応を行いました。2月より、来院患者の減少により検査数・保険点数共に減少しました。

検査件数

単位：件

	令和元年度			平成30年度	対前年度比 (%)
	外来	入院	合計		
一般	11,572	2,726	14,298	14,572	98.1
生化学	216,820	96,319	313,139	316,382	99.0
微生物	1,967	2,592	4,559	4,391	103.8
血液	31,417	14,113	45,530	46,473	98.0
免疫	10,327	7,579	17,906	19,104	93.7
生理	3,319	1,247	4,566	5,136	88.9
病理	1,117	388	1,505	1,431	105.2
合計	276,539	124,964	401,503	407,489	98.5

放射線技術科

技師長 矢守 達也

■ 概要

平成 25 年から開始された、長浜病院との人事交流も 7 年目となりました。当院は 6 名、長浜病院への異動は 2 名の体制を敷いています。

こうした交流により習得した技術や知識を活かすため、また数年内に数名のスタッフが定年を迎えることを見据え、全員が全てのモダリティを操作できるよう習得に努めました。

自己研鑽として、学会や研究会への参加も積極的に取り組みました。医療技術局の出前セミナーおよび健康フェスティバルにはそれぞれ 2 回参加し、骨密度測定の実践をおこないました。また、11 月の原子力災害訓練では当院が会場となったことから、全スタッフが研修・訓練に参加しました。

機器関係では、9 月に骨密度測定装置を、10 月に X 線透視装置を更新しました。

骨密度測定装置は、NST の活動が開始することから、筋肉量、脂肪量等の体組成計測機能を備えた装置を導入しました。骨粗しょう症の診断に加え、サルコペニアや栄養状態の評価などが期待でき、検査の対象が広がるものと思われます。

X 線透視装置は、フラットパネルディテクタ (17×17 インチ) を搭載していることで、鮮明でゆがみのない画像が得られ、同時に広い範囲を観察することが可能になりました。手技に要する時間・透視時間の短縮に繋がっており、患者さまとスタッフの被ばく低減に寄与するとともに、より安全に検査をおこなうことができるようになりました。

■ 業務実績

骨密度検査は、体組成計測が加わったこともあり 20% の増加となりました。

今年度も医療機関からの紹介をはじめ、長浜市 0 次健診や骨粗鬆症検診など、外部からの依頼検査を積極的に受け入れました。紹介検査では、整形外科関連の MRI 検査が増加しました。それに伴い、画像 CD 作成などの業務も増加しています。

撮影件数

(0 次を除く)	C R	C T	M R I	骨密度	紹介検査	延べ患者数
平成 30 年度	10,517 件	4,769 件	1,809 件	1,114 件	861 件	16,519 件
令和 元年度	10,200 件	4,428 件	1,959 件	1,365 件	1,112 件	17,022 件
増 減	-3%	-8%	8%	18%	23%	3%

紹介検査受入れ数

	紹介 C T	紹介率	紹介 M R I	紹介率	0 次健診	C D 作成	データ取 込
平成 30 年度	290 件	6.1%	521 件	29%	445 人	1,031 枚	1,183 件
令和元年度	309 件	6.5%	724 件	27%	218 人	1,408 枚	774 件
増 減	6%	6%	28%	-7%	-104%	27%	-52%

遠隔読影依頼数

マンモグラフィは、1 検査につき 2 名の医師による読影を年度半ばより実施しています。

	C T	M R I	マンモグラフィ	胃検診	X 線撮影	依頼合計
平成 30 年度	4,767 件	1,810 件	111 件	179 件	15 件	6,882 件
令和 元年度	4,428 件	1,959 件	174 件	182 件	2 件	6,745 件

リハビリテーション技術科

技師長 熊河久登

■ 業務実績

令和元年度のリハビリテーション技術科の年間での技士数は約 7.0 人で前年度比は 93.9%に減りました。技士の内訳は、理学療法士 (PT) 2.9 人、作業療法士 (OT) 2.6 人、言語聴覚士 (ST) 1.5 人でした。

施設基準は、脳血管疾患等リハビリテーション (Ⅱ)、廃用症候群リハビリテーション (Ⅱ)、運動器リハビリテーション (Ⅱ)、呼吸器リハビリテーション (Ⅱ) と前年度と変わりはありません。訪問看護ステーションへの兼任による在宅でのリハビリテーションも継続しました。

疾患別リハビリテーションの前年度比較では、患者数は 96.6%、単位数は 97.3%と減少しました。

地域包括ケア病棟のリハビリテーション実施単位数は 14,907 単位 (前年度比 114.9%) と増加し、症例数 245 人 (前年度比 122.5%) と、実施延べ日数 7,298 日 (前年度比 119.4%) も増加しました。平均実施単位数は 2.04 単位 (前年度比 96.2%) に抑えることができました。

摂食嚥下に関しては、嚥下造影検査 (VF) 3 件、嚥下内視鏡検査 (VE) 14 件、摂食機能療法 6 件、摂食嚥下カンファレンスは 41 回実施されました。

地域連携としての活動は、出前健康セミナーではロコモや認知症予防を兼ねた体操についての講演など 7 か所へ参加しました。院内連携では、病棟・外来リハビリテーションカンファレンス、摂食嚥下カンファレンス、腎臓リハビリテーションカンファレンス、糖尿病教室への参加を継続し、令和 1 年度から排尿ケアチームカンファレンス、NST (栄養サポートチーム) の回診とカンファレンスに参加しました。

リハビリテーション科 令和元年度実績

診療内容		令和1年度	(前年比)	平成30年度
疾患別リハビリテーション	患者数			
	脳血管疾患等リハビリテーション	3,053	(86.0%)	3,550
	廃用症候群リハビリテーション	6,595	(89.9%)	7,335
	運動器リハビリテーション	5,099	(115.9%)	4,398
	呼吸器リハビリテーション	11	—	0
	患者数合計	14,758	(96.6%)	15,283
	単位数			
	脳血管疾患等リハビリテーション	5,636	(82.3%)	6,844
	廃用症候群リハビリテーション	11,899	(92.2%)	12,904
	運動器リハビリテーション	10,494	(115.6%)	9,080
その他	呼吸器リハビリテーション	13	—	0
	単位数合計	28,042	(97.3%)	28,828
	上記内、地域包括ケア病棟での単位数	14,907	(114.9%)	12,973
	摂食機能療法 (ST分)	6	(14.0%)	43
	早期・初期加算	8,510	(94.6%)	8,997
	退院時・退院前訪問指導	167	(127.5%)	131
	総合計画評価料	1,210	(86.4%)	1,400
	症例数	245	(122.5%)	200
	リハビリ実施延べ日数	7,298	(119.4%)	6,113
	平均単位数	2.04	(96.2%)	2.12
新規リハビリテーション患者数		510	(111.1%)	459
リハビリテーション技士数 (PT・OT・ST)		6.98	(93.9%)	7.43

■ 評価

新規リハビリテーション患者数が増加し、地域包括ケア病棟のリハビリテーション対象者も増加しましたが、技士数が減少した影響で、疾患別リハビリテーション実施患者数と単位数は共に減少しました。また、栄養と排尿に関わる業務に新たに参加し、院内連携の強化に努めることができました。

栄養科

栄養科長 矢守 達也

■ 業務実績

- ・給食委託業務についての情報収集及び仕様書の見直し等を行い、令和2年度の契約更新に係る準備を進めました。
- ・実地研修やシステム変更、院内における運用に関する準備等を行い、5月より非加算にてNST活動を実施し、12月より算定を開始しました。
- ・湖北地域の三病院間における「患者食の相互支援に関する協定書」の策定を行いました。
- ・災害時の備蓄食品について、前年度に引き続き、残り2日分(6食分・1,200食)の確保を行いました。
- ・長浜病院と合同の医療技術局研修会にて、他職種連携について発表を行いました。

■ 評価

今年度は、給食業務体制の見直しや備蓄食品の確保を行い、給食の供給が滞りなく行えるよう努めました。今後も安定した給食業務体制を模索し、契約更新に向けての準備を進めていきます。今後は、栄養指導件数の増加、栄養管理・NST活動・栄養ケアマネジメントの充実に向けての取り組みが求められます。

■ カンファレンス・会議等

NST 金曜日
 嚥下カンファレンス 火曜日
 退所前カンファレンス 随時
 経口維持加算カンファレンス 随時
 低栄養リスク改善加算カンファレンス 随時
 透析カンファレンス 月1回
 糖尿病チーム会 第二木曜日

○湖北病院

単位:件、%

○湖北病院															単位: 件・%	
食種/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一食 平均	構成比
非加算食	普通食	694	878	764	1,132	1,203	870	746	628	427	403	381	434	8,560	8	8.6
	軟菜食	2,522	3,148	2,641	3,423	3,356	2,528	3,388	3,496	3,457	3,750	3,074	3,200	37,983	35	38.2
	注入食	649	590	578	601	680	669	722	745	766	837	614	800	8,251	8	8.3
	低残渣食	12	3	10	76	98	59	32	86	41	8	36	69	530	0	0.5
	その他	847	791	1,048	1,004	1,068	1,180	1,208	1,006	883	1,104	632	755	11,526	11	11.6
小 計		4,725	5,410	5,041	6,236	6,405	5,306	6,096	5,961	5,574	6,102	4,737	5,258	66,851	61	67.3
加算食	糖尿病	1,263	996	783	1,008	978	859	905	878	979	1,138	885	878	11,550	11	11.6
	腎不全	85	197	185	49	181	97	205	350	592	373	193	226	2,733	2	2.8
	透析	795	764	747	729	741	581	560	460	435	409	475	687	7,383	7	7.4
	心血管食	528	432	417	253	538	423	745	617	656	689	444	289	6,031	6	6.1
	肝臓食	171	143	140	93	106	130	136	90	127	109	104	136	1,485	1	1.5
	脂肪制限食	0	84	14	25	51	89	8	0	0	54	69	26	420	0	0.4
	潰瘍食	158	130	115	51	173	66	0	16	119	122	97	112	1,159	1	1.2
	脂質異常症	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0.0
	貧血食	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	63	180	245	0	0.2
	大腸ファイバー対応	12	3	7	6	2	5	8	12	3	7	0	8	73	0	0.1
低残渣食(加算)		126	93	97	115	154	138	133	115	100	116	87	113	1,387	1	
小 計		3,138	2,842	2,505	2,329	2,926	2,388	2,702	2,538	3,011	3,017	2,417	2,655	32,468	30	32.7
合 計		7,863	8,252	7,546	8,565	9,331	7,694	8,798	8,499	8,585	9,119	7,154	7,913	99,319	91	100.0
一食平均給食数		87	92	84	95	104	85	98	94	95	101	79	88	1,104		
加算食比率		40	34	33	27	31	31	31	30	35	33	34	34	393	0	

○やすらぎの里

単位: 件、%

食種/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一食 平均	構成比
非加算食	軟菜食	4,876	4,840	4,227	4,907	5,078	4,708	4,991	4,390	4,692	4,777	4,098	4,402	55,986	51	62.8
	注入食	60	62	53	13	62	60	62	60	62	62	58	62	676	1	0.8
	特食	2,279	2,397	2,369	2,414	2,243	2,251	2,312	2,584	2,672	2,702	2,787	3,040	30,050	27	33.7
	その他	26	12	0	73	81	90	48	30	31	31	29	31	482	0	0.5
	デイ	149	171	176	157	147	162	167	175	150	147	146	140	1,887	2	2.1
合 計		7,390	7,482	6,825	7,564	7,611	7,271	7,580	7,239	7,607	7,719	7,118	7,675	89,081	81	100.0
一食平均給食数		82	80	76	81	82	81	82	80	82	83	77	83	958		

○栄養指導

単位: 件

指導内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
個人指導	算定可	糖尿病食	13	9	7	5	4	2	2	7	6	10	13	14	92
		腎不全食	1	2	2	2	2	3	1	1	3	2	2	1	22
		人工透析食	1	2	2	0	1	1	2	2	1	2	1	1	16
		心血管疾患食	0	0	2	0	1	2	1	1	0	1	1	0	9
		高血圧食	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
		脂質異常症食	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
		肝臓病食	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
		脂肪制限食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		胃潰瘍食	0	0	1	1	2	1	0	1	0	0	0	0	6
		貧血食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		低残	0	0	1	0	1	0	2	0	0	1	0	0	5
		摂食不良・ミキサー等	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3
	小 計	18	13	16	8	12	10	8	13	10	17	18	17	160	
	算定不可	胃切後食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	1	2	0	0	0	0	1	1	0	0	5
	小 計	0	0	1	2	0	0	0	0	1	1	0	0	5	
	合 計	18	13	17	10	12	10	8	13	11	18	18	17	165	

糖尿病透析予防指導	1	1	0	1	0	0	6	1	1	0	2	2	15
-----------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

機器センター

機器センター長 横井 昌裕

■ 業務実績

① 臨床技術提供業務

・急性血液浄化療法業務・・・	CHDF	5 例
	病棟HD	2 例
	CART	1 例
・人工呼吸器関連業務・・・		27 例
・VA関連業務・・・	VAUS	304 件
	VAIVT	74 件

② 医療機器点検業務

- ・日常点検・・・病棟管理機器の点検、AED点検、
シリンジ・輸液ポンプ使用後点検（1回／日）
- ・保守点検・・・シリンジ・輸液ポンプ、人工呼吸器・・・（1回／2ヶ月）
除細動器、血液浄化装置、
生体情報モニター（セントラル、ベッドサイドモニター）、
心電計・・・（1回／1M）
- ・定期点検・・・シリンジ・輸液ポンプ、血液浄化装置・・・（1回／年）
除細動器、人工呼吸器、パルスオキシメータ・・・（1回／6ヶ月）

③ 教育・技術研修

- ・医療安全研修会（新規採用看護師対象）・・・シリンジ・輸液ポンプについて
- ・新規購入AED（フィリップス社製）取扱勉強会・・・山内
- ・第24回血液浄化セミナー～基礎編～滋賀県臨床工学技士会・・・杉江（講師）

④ 学会発表

- ・第40回滋賀腎・透析研究会・・・杉江（座長）、藤井（演題発表）
- ・第58回全国自治体病院学会・・・杉江（演題発表）

■ 評価

探究心を持って自己研鑽に勤めるため積極的に関連学会や研修会に参加しました。今年度は学会へ2演題の発表をしました。

◆ 看護局

看護局長 桐畑 明美

<看護局理念>

患者様の生命と人格を尊重し「私や家族が受けたい看護」を提供します。

<看護局方針>

- 1 安全で効果的・効率的な看護サービスを提供します。
- 2 患者様を全人的に捉え、同意と納得が得られる看護を実践します。
- 3 外部機関との連携をもち地域社会のニーズに応じた看護活動を行います。

■ 看護局概要

令和元年度は、4月当初に地域包括事業部が立ち上げられ、へき地医療拠点病院として地域の方への支援体制がより強まりました。地域とともにある病院・地域に開かれた病院を目指し、病院基本構想の検討会が何度も持たれました。

ところが、9月末、厚労省が「地域医療構想に関するワーキンググループ」で、再編統合（病床のダウンサイジングや機能転換を含む）の必要性について再検証を求める424病院を公表し、その中に湖北病院も名を連ねていました。いくつかの風評被害を受けながらも、湖北地域医療構想区域の国による重点支援区域への申請が通り、1月末、国による重点支援区域に選定されました。これにより、湖北4病院の再編統合が加速するものと思われます。

看護局では、現状を守りつつ今後の方向性を見極め、対応することが必要となります。令和2年度には、診療報酬改定があります。僻地における救急医療を守りつつ、病床分化に対応していかなければなりません。

今年度、看護局目標は、1.安全で安心な療養環境の提供 2.働き方改革を目指した就労環境の整備 3.病院経営への参画 と3つを上げ、取り組みました。

1. では、医療の質向上を目指しました。各部署の専門性を高める研修をそれぞれ実施することや、NSTや排尿ケアチームを始動し、多職種連携によるチーム医療の推進に努めました。院内全体の認知症対応力向上を目指し、認知症看護認定看護師による研修も繰り返し実施するなど、地域住民に信頼される医療の提供ができるよう取り組みました。

人材育成では、教育担当科長を中心に、当院のキャリアラダーで育成を進めるとともに、院内外へ多くの研究発表や実践発表を行いました。

学生の臨地実習指導では、年間受入れ回数・人数を増やすとともに、昨年同様、療養病棟においても実習を受け入れ、学生一人一人の個性や能力を尊重して手厚い指導を行いました。

2. においては、年次休暇取得や、超過勤務削減に努め、一定の成果を上げることができました。

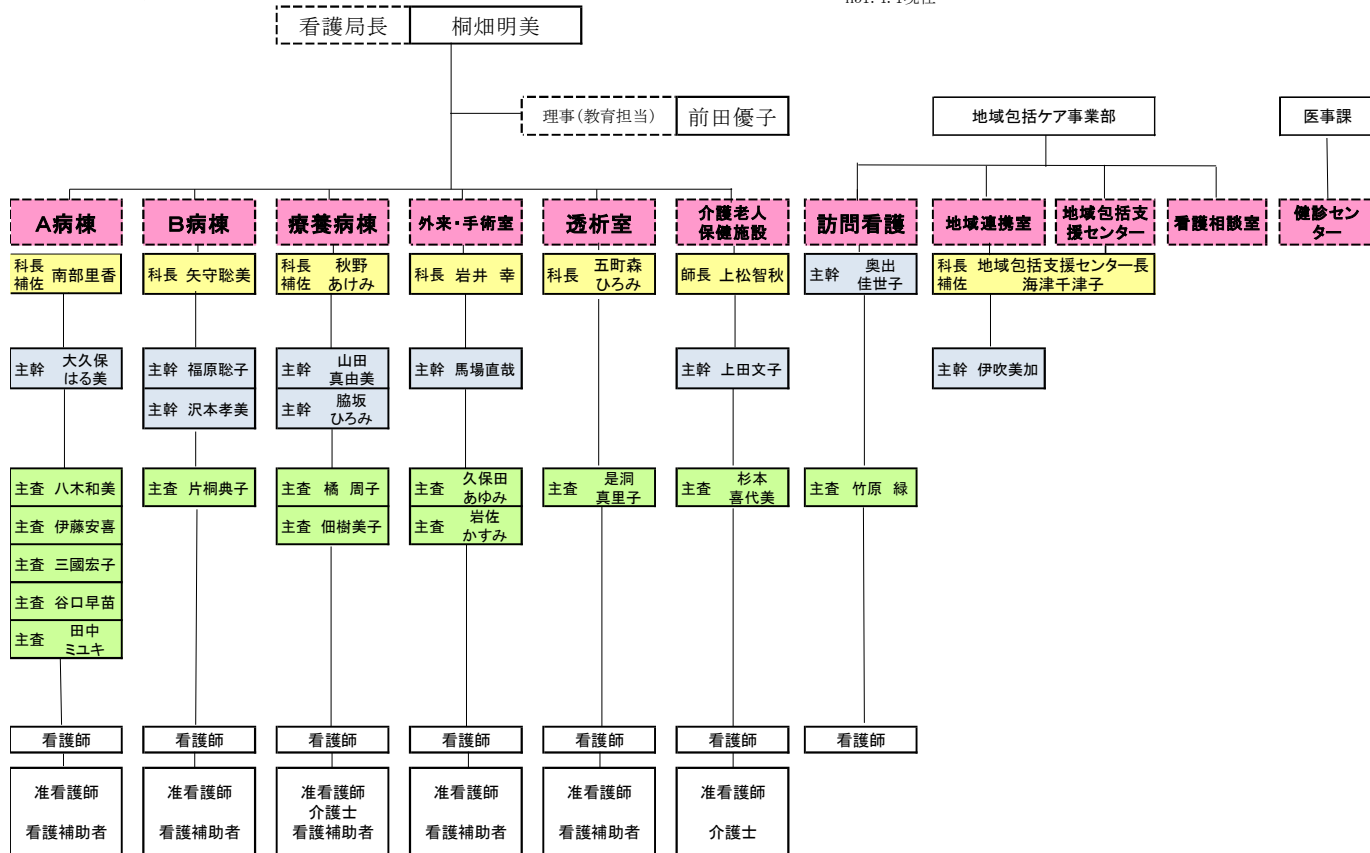
3. では、地域連携室の活躍もあり、すべての病棟で、前年度患者数を上回り、また、各種加算においても基準が維持できるよう努めました。収入に大きく貢献できたものと思っております。

また、看護局では、数年前から、看護を地域の皆様へ発信し、当院への理解を深めていただくことを目的に、「看護宅配便」による出前講座を実施しています。講座内容も充実し、地域からの要望も増えてきました。今年度は、特に多くのご連絡をいただき、今までにない回数を実施し、地域の皆様とつながることができました。

今後、ますますこの旧伊香地域は、高齢化が進んでいきます。その中で、先に上げたように当院看護局のミッション・ビジョンを目指す病院として、地域住民に安心・安全な医療が提供できるように努力してまいります。

長浜市立湖北病院 看護局組織図管理(令和元年度)

H31. 4. 1現在



長浜市立湖北病院看護局

ミッション（組織の存在理由）

- ①僻地中核病院として地域住民に満足の得られる医療の提供を行います。

ビジョン（組織が目指す将来像）

- ①地域の病院として良質な医療が提供できる医療機関
- ②ケアミックス病院として外来・病棟・療養・訪問看護ステーション・老健・地域との連携と安心できるケアの提供
- ③看護職が笑顔で働き続けられる職場環境の提供

令和元年度看護目標

1. 安全で安心な療養環境の提供

- 1) 基準・手順の遵守と良好なコミュニケーションで安全な看護を提供する。
 - ① S-BAR による報告の定着
- 2) チーム医療を推進し、看護の質を高める。
 - ① NST チーム・排尿ケアチームの定着を図る。
 - ② 多職種と連携し、地域につなげる看護を実践する。
 - ③ 専門的知識、技術の向上を図る。

2. 働き方改革を目指した就労環境の整備

- 1) 年次休暇取得率向上
 - ① 計画的有休付与を実現する。
- 2) 超過勤務時間削減
 - ① 業務のスリム化を図る。
 - ・各部署業務改善 1 提案
 - ② 看護補助者との協働

3. 病院経営に参画する

- 1) 施設基準の管理
 - ① 各所属の施設基準をクリアする。
- 2) 改革プランに基づく各目標値達成に協力する
 - ① 有効な病床利用
 - ・入院患者数増加
 - ・他院や開業医からの入院受け入れ数の増加

看護局各所属目標・評価

看護目標		担当部署	実践内容
安全で安心な療養環境の提供	1) 基準・手順の遵守と良好なコミュニケーションで安全な看護を提供する	A病棟	・周術期看護の勉強会を開催し、早期離床につなげられた ・ウロ・整形のパンフレットの見直しをし、活用が行えた ・BLS研修を2回行い意識障害鑑別法一覧を作成しスタッフに配布した、活用は今後、評価していく ・カンファレンスでニーチャムスケールを用いてせん妄予防に努められた
		B病棟	・後半になり在宅支援依頼表を使用し情報収集ができるようにはなってきた。また在宅支援依頼表や意思決定支援用紙を使用しているカンファレンスも意識出来るようにはなってきた。多職種カンファレンスが日常的に行えるようになった。 ・地域包括ケア病棟育成指標が作成できた。
		療養病棟	・患者誤認・点滴速度についてのシェル分析をし遂行過程の読み合わせをした。今後3か月毎の評価を実施する。入浴札の改善をし医療安全シンポジウムで発表を実施した。
		透析	・フットケア体制の強化が図れ透析患者のQOL維持や早期治療に繋がられた ・党咳患者の合同カンファレンスに2回参加できた。病棟看護師と情報を共有し退院へつなぐことが出来た。
	2) チーム医療を推進し、看護の質を高める	外来手術室	以下の学習会を実施 ①S-BAR ②救急対応（挿管助）・災害初動 ③呼吸管理デバイス：ネイザルハイフロー 参加は半数程度（診察助・カメラ・OP等のため）。実践は次年度へ。
		訪問看護	・インシデント、ヒヤリハットの報告記入はでき、カンファレンスで検討する事ができた ・カンファレンスはできたが、計画を立てておこなうことはできず急遽テーマを決める状況であった ・ナーシングサポートの視聴は全くできなかった
		地域連携室	1) 外部との情報交換積極的に情報交換を実施でき、目標を大きくクリアし、介護指導連携指導加算も309件実施 2) 外部研修・会議の参加は47件あり、一人平均で11.75件参加（目標235%）退院支援・調整を積極的に実施。外部研修・会議にも参加できた
働き方改革を目指した就労環境の整備	1) 年次休暇所得率の向上	A病棟	・ミニカンファの基準を作成し、スタッフに活動し申し送り時間の短縮化につながった ・指示受け表の見直しを行い夜勤の業務の軽減に努めたため、日々のリーダーの時間外業務の削減につながった ・有休休暇・リフレッシュ休暇ともに5日間取得できた
		B病棟	・早期より有給休暇、リフレッシュ休暇の取得を予定し全員が取得する事が出来た。 ・日勤勤務での残務以外は超過勤務計画書の提出を必要としたため、日勤での提出時間は減少した。しかし業務改善試みるも長日勤での減少にはつながらなかった。
		療養病棟	・有給休暇・リフレッシュ休暇ともに全員が取得できた。 ・早出・遅出などの業務の見直しや、透析患者の陰洗・保清についての見直しを行いマンパワー不足を補えるようにした。
		透析	・曜日によって配置を確認し、有給・リフレッシュ休暇共に全員が取得できた。 ・朝のプライミング業務に関して見直しをおこなった。しかし、プライミングやチェック業務など朝に行う業務は多い。朝のマンパワーが不足している。
	2) 超過勤務時間削減	外来手術室	1) 業務のスリム化①内視鏡室：CSP導入の勉強会・CF前処置の学習会実施。②OP室：応援業務内容の書上げはできた。OP室スタッフ以外への説明は未。白内障OPの外回り患者サイド業務には眼科外来スタッフの応援できてきた。 2) 有給休暇・リフレッシュ休暇全員取得できた。
		訪問看護	・有休の取得はできた ・午前訪問後の記録があり休憩時間45分をまとめてとることは難しかった。取れなかった分は空いた時間に取るように声掛けした
		地域連携室	1) 年間有給休暇及びリフレッシュ休暇取得は全員がクリアできた。ワークライフバランスに配慮や3連休以上の休暇取得を促し、休暇中のサポートを互いにフォローし対応できた。 2) 毎月MTを実施して情報共有を図った。業務整理やマニュアル化も徐々に進み、スリム化を今後も検討する。
*	1) 施設基準の管理	A病棟	・必要度30%はクリアし、7:1の急性期加算は取れたが、来年度の診療報酬改定後が懸念される ・入院患者数も例年よりはるかに上回る事ができた ・汎用一覧表を作成する事で、取り漏れが減少した ・排尿ケアチームの活動が軌道に乗ってきた
		B病棟	・地域包括病棟で算定に必要な施設基準はクリアできた。 ・入院患者数は例年よりはるかに増加し、眼科OP入院時にはベッドコントロールに苦慮したがA病棟や地域連携室と連携しベッドコントロールすることができた。
		療養病棟	・医療区分2・3の割合は、年間平均91.7%と維持できている。 ・平均入院患者数は、看取りの患者が多かったが、年平均49.08%と48名をクリアできた。地連や一般病棟と連携を取り、転入・入院は全員受けた。
		透析	・導入期加算は2→1となったが、導入患者には取る事ができた。また、フットケア加算を増やすことができた。透析延べ件数は前年度より増加している。改革プランの目標値はクリアできている。
	2) 改革プランに基づく各目標値達成に協力する	外来手術室	①患者満足度調査では接遇に関するクレームはなかった。（待合のほこり・待ち時間のご意見あり ➡ 次年度へ） ②診察時の着席時の転落リスク2件あり：高齢者の特徴について学習会 ➡ 次年度も計画 ※禁煙外来実績5名/2019年度できた。
		訪問看護	・職員の退職があり新規依頼を断らざるを得ない状況になった ・目標件数はクリアできた
		地域連携室	1) A・B・R病棟の加算は問題なく維持することが出来た。特に療養は転棟・転院患者受入増で入院患者も増加した。しかし死亡退院も多くあり、増減のコントロールが難しい事が今後の課題。 2) 加算取得についても前年度比増、今年度目標クリアできた。

看護部教育計画・実績

	月 日	時間	内 容	講 師	担 当 者	実 績
新 人	4/1. 2. 4	8 : 30～17 : 15	オリエンテーション（公務員として、勤務の心構え、接遇など）	局長	前田	11
	4月6日	8 : 30～17 : 15	社会人基礎力・倫理	福原	福原	9
	4月8日	8 : 30～17 : 15	新人基礎看護技術研修 I 移動・ポジショニング・嚥下等	実地・委	福原	9
	4月9日	8 : 30～17 : 15	新人基礎看護技術研修 II 清潔援助・排泄援助等	実地・委	竹原	9
	4月13日	8 : 30～17 : 15	新人基礎看護技術研修 III 投薬・酸素療法・吸引等	実地・委	橘	9
	4月15日	8 : 30～17 : 15	新人基礎看護技術研修 IV 静脈採血・血液ガス分析・注射等	実地・委	安済	9
	4月16日	8 : 30～17 : 15	新人基礎看護技術研修 V 血糖測定・インシュリン・清潔介助	実地・委	橘	9
	4月18日	8 : 30～17 : 15	リスク（医療安全・薬剤）研修・看護の語り体験	竹原	竹原	9
	4月19日	8 : 30～17 : 15	看護記録・電子カルテ・看護必要度	記録委	橘	9
	4月26日	8 : 30～17 : 15	メンバーシップ・看護補助体験・外来見学	福原	福原	9
	4月27日	8 : 30～17 : 15	新人基礎看護技術研修 VI 心電図・輸液ポンプ・褥瘡処置等	実地・委	竹原	9
	5月15日	8 : 30～17 : 15	フィジカルアセスメント研修	竹原	竹原	9
	6月12日	8 : 30～17 : 15	救急蘇生看護	橘	橘	9
	7月3日	8 : 30～12 : 30	振り返り研修・夜勤の心構え	福原	福原	9
	7月10日	8 : 30～17 : 15	看護診断・退院支援・看取り期の看護	記録委・退院委	竹原	9
	9月4日	8 : 30～17 : 15	多重課題研修・新人交流会	福原	福原	8
	9月27日	17 : 30～18 : 30	実地指導者交流会	福原	福原	8
	2月26日	8 : 30～12 : 30	1年の振り返り	福原	福原	9
	3月27日	17 : 30～	四者交流振り返り発表	福原	福原	9
ラダーレベル別研修	5月14日	17 : 30～19 : 00	ラダーレベルⅠ・Ⅱフィジカルアセスメント	是洞	是洞	18
	5月29日	9 : 00～AM	ラダーレベルⅠ・Ⅱ患者をとらえる力	岩佐	岩佐	14
	6月5日	17 : 30～19 : 00	ラダーレベルⅠ・Ⅱフィジカルアセスメント	是洞	是洞	11
	6月5日	9 : 00～AM	ラダーレベルⅠ・Ⅱ患者をとらえる力	岩佐	岩佐	11
	10月3日	17 : 30～	ラダーレベルⅠ・Ⅱ看護倫理	沢本	沢本	16
	10月8日	17 : 30～	ラダーレベルⅠ・Ⅱ看護倫理	沢本	沢本	11
	11月20日	9 : 00～AM	ラダーレベルⅢ・Ⅳ意思決定支援	大久保	大久保	6
	11月27日	9 : 00～AM	ラダーレベルⅢ・Ⅳ意思決定支援	大久保	大久保	5
	12月4日	9 : 00～11 : 00	理論研究発表		沢本	37
	3月5日	17 : 30～19 : 00	チームリーダー成果発表会	沢本	沢本	44
	3月11日	8 : 30～17 : 15	実地指導者研修	脇坂	脇坂	7
	3月18日	8 : 30～12 : 30	来年度チームリーダー研修	沢本	沢本	12
	1月28日	17 : 30～19 : 00	管理者研修報告会		前田	25
全 体 研 修	4月15日	17 : 30～18 : 00	研究発表会説明会	岩佐	岩佐	3
	5月28日	17 : 30～18 : 00	ナラティブ発表会説明	岩佐	岩佐	3
	10月4日	17 : 30～19 : 00	ナラティブ発表会	岩佐	岩佐	37
	2月25日	17 : 30～19 : 00	研究発表会		岩佐	47
	10月15. 17日	14:00～16 : 00	看護補助者研修	馬場	馬場	18

看護局業績

	看護局に関する事項	病院事業・その他
4月	・新規採用者オリエンテーション3日間(1・2・4日) ・新人看護師研修一日(6・8・9・13・15・16・18・19・26・27日) ・新人四者交流会4日 ・長浜市認知症会議(11日) ・看護宅配便18日(木ノ本)・20日(祝山)	・新採用者・昇格者辞令交付(1日) ・職員集会(1日) ・滋賀県立看護専門学校入学式出席(9日)
5月	・自治体病院看護部長連絡会(近江八幡市立病院)(10日) ・インターンシップ4名(11日) ・病院見学会3名(25日) ・第6地区ネットワーク推進会議(長浜)(13日) ・フィジカルアセスメント研修(14・15日) ・実習指導者会議(17日) ・「専任教諭を終了して」(30日) ・湖北圏域看護職連携会議(長浜)(20日) ・看護宅配便(坂口)(23日) ・看護過程研修Ⅰ・Ⅱ(19日)	・看護の日イベント18日(玄関ホール) 患者家族55名参加
6月	・病院見学1名(17日) ・研究サポートリーダー研修5日間 ・日本老年看護学会学術集会発表(仙台)(6日) ・看護過程研修Ⅰ・Ⅱ(5日) ・看護必要度指導者研修(30日) ・フィジカルアセスメント研修Ⅰ・Ⅱ(6日) ・ファーストレベル(奥出・沢本)4日～ ・新人救急研修(12日) ・病院協会看護管理者会議(大津)(8日) ・看護宅配便(木之本)16日(下八木町)(18日)(柏原20日) ・県看護協会通常総会(草津)(15日) ・第6地区支部集会23日 ・長浜市認知症研修(27日)	・医療安全相互チェック打ち合わせ(10日) ・糖尿病教室(8日) ・七郷小学校児童病院訪問(11日) ・院内感染防止研修(11・20日) ・適時調査対策セミナー(大阪)(14日) ・職員医療安全研修会(27日) ・排尿ケアチーム研修会(14日) ・非常通報装置取り扱い訓練(27日)
7月	・県立看護専門学校実習(5～23日) ・新人一日研修(3・10日) ・看護宅配便(安養寺)(16日) ・滋賀県看護管理者合同研修会(草津)27日 ・県立看護専門学校講義(4・25日) ・実習指導者会議(12日) ・湖北圏域看護職連携会議(日赤)22日 ・県立看護専門学校療養病棟・老健実習25・26日 29・30日 ・高校生一日看護体験26日(3名) ・病院見学3名(6日) ・余呉小学校水泳大会救護班(23日) ・第6地区ネットワーク推進会議(長浜)(29日)	・職員認知症研修会(23日) ・中学生職場体験(4～9日) ・医療安全研修会(5日) ・災害時対策研修(日赤)(11日) ・不在者投票(18日) ・改革プラン推進会議(25日)
8月	・県立看護専門学校オープンキャンパス参加(2・3日) ・湖北ルール実務者会議(長浜)(2日) ・湖北ルール代表者会議(長浜)(26日) ・インターンシップ9名(3日) ・病院見学会3名(17日) ・合同就職説明会(米原)(6日) ・第1回平成31年度看護師採用試験(10日) ・滋賀県看護管理者会議(大津)(8日) ・臨地実習指導者研修会(看護学校)27日	・職員認知症研修会(1・8日) ・NST研修(滋賀医大)5日間 ・滋賀県国保地域医療学会(1題発表)(4日) ・入退院支援実務者意見交換会(保健所)20日 ・職員検診(19・20・22・23日) ・初期消火訓練(29日)
9月	・県立看護専門学校実習(5～19日)(24～10/9) ・京都看護大学合同就職ガイダンス参加(京都)(28日) ・湖北圏域看護職連携会議(長浜)(9日) ・新人多重課題研修 新人交流会(4日) ・看護宅配便(上丹生)(16日) ・実習指導者会議(10日) ・第6地区ネットワーク推進会議(長浜)(20日) ・実地指導者交流会(27日) ・サードレベル開講(18～11/27)	・安全運転研修会(17日) ・自治体病院ソフトボール大会参加(今津)23日) ・糖尿病教室(21日) ・医療安全管理者講座(大阪)(28日) ・院内認知症研修会(20・27・10/19) ・病院協会ソフトボール大会23日
10月	・敦賀看護大学医療施設説明会(敦賀)(1日) ・看護宅配便(杉野)(2日) ・ナラティブ発表会(4日) ・看護倫理研修Ⅰ・Ⅱ(3・8日) ・看護補助者研修(15・17日) ・看護師会食会(30日) ・県立看護専門学校実習(15～21日)	・老人健康増進事業ワークショップ(長浜)(5日) ・余呉湖マラソン協力(6日) ・長浜市町中フェスタ参加20日 ・NST研修5日間(近江八幡市立病院) ・長浜赤十字病院大規模災害訓練(長浜)(27日) ・長浜市総合防災訓練27日 ・医療安全相互チェック(31日)

11月	・看護必要度研修(7日) ・看護師会食事会(9・12日) ・看護師採用面接1名(9日) ・臨地実習訪看(14～11/26) ・意思決定支援研修Ⅲ・Ⅳ(20・27日) ・県立看護専門学校訪問看護実習14日～ ・湖北圏域看護職連携会議18日(長浜) ・看護宅配便(余呉)(13日) (下八木)(19日) ・看護宅配便(高畑長)(22日) ・第6地区ネットワーク推進会議(長浜)(22日)	・長浜市原子力防災訓練事前練習(8・11日) ・長浜市原子力防災訓練(湖北病院)(17日) ・職員インフルエンザワクチン接種(5・6・8・9日) ・職員医療安全研修(22・28日) ・七郷小病院訪問(19日) ・糖尿病教室(16日) ・湖北圏域看護職連携会議(長浜)(18日) ・保健所立ち入り調査(21日) ・国保直進セミナー(大津)5日
12月	・第6地区ネットワーク推進会議研修会(長浜)(1日) ・事例発表(理論)(4日) ・看護師採用試験1名(13日) ・自治体病院看護部長連絡会(湖北病院)(6日) ・滋賀県看護学会5日 ・看護宅配便(余呉)(11日) ・看護学校演習協力17日(1名)	・職員感染研修会(5・17日) ・親睦会忘年会(10日) ・改革プラン推進会議(16日) ・糖尿病勉強会(19日) ・クリスマスコンサート(21日)
1月	・湖北圏域看護職連携会議(長浜)(20日) ・第6地区ネットワーク推進会議(長浜)(17日) ・病院協会看護部長研修会(大津)(30日) ・看護局管理者研修(27日) ・実習指導者会議(31日) ・フットケア研修(京都)(10・11日) ・看護宅配便(余呉)(8日)	・職員集会4日
2月	・第6地区ネットワーク推進会議(長浜)(19日) ・医療マネジメント学会京滋支部集会16日(京都)2名発表 ・看護宅配便(余呉)(12日) ・研究発表会(18日) ・医療マネジメント学会京滋支部学術集会(京都)(15日) ・新人振り返り研修(26日) (発表2題)	・滋賀県病院大会(大津)(2日) ・七郷小病院訪問(4日) ・新規採用者説明会(29日)
3月	・次年度実地指導者研修(11日) ・看護宅配便(余呉)(中止) ・県立看護学校関係者評価会議(長浜)(13日) ・看護師会総会(6日) ・チームリーダー成果発表会(5日) ・看護局目標評価・立案(4日) ・インターンシップ9名(延期) ・病院合同説明会(大津)(延期)・新チームリーダー研修(18日) ・看護管理者研修会(大津)(中止) ・新人交流会(26日) ・湖北圏域看護職連携会議(縮小)	・防災訓練(19日) ・県立看護専門学校卒業式(縮小) ・医療安全相互チェック評価等会議(長浜)(13日) ・新型コロナ感染症対策会議(長浜)数回 ・臨時感染委員会(数回) ・親睦会総会30日

看護局委員会活動報告

委員会・会議		年間目標	活動概要・結果
科 長 会		①広報活動を行い、人材確保につなげる ②地域の病院として、地域ニーズにあった活動を行う ③施設基準がクリアできるよう管理・教育を実施する ④就労環境の整備により、確実な休暇取得を目指す	①合同病院説明会への参加・看護協会による合同就職説明会・オープンキャンパスへの参加などにより、広報を実施し、インターンシップや病院見学会へつなげることができ、採用者を確保できた。 ②看護宅配便を19回実施。予定よりオーバーワークとなってしまったが、地域のニーズに沿った講座内容を聞くことができ、リピーターが増えている。 ③入院患者数が大幅に増えた。増加に伴う基準値の変更に対応できた。 ④採用増や業務見直し、部署間の協力により、有休やリフレッシュ休暇を付与できた。妊婦の働き方改革に取り組んだ。
	主 査 会	1) 主査会の運営 2) 小チーム活動の運営 ①看護研究・院外発表支援ができる ②看護補助者への理解を深め、補助者研修を行う ③中途採用者の支援環境を整える ④各マニュアルの見直しや更新ができる 3) 人材育成 ①ラダーレベル支援 ②学研ナースングサポート視聴支援	1) 計画に沿って運営が出来た。主査会開催についての課題もあつた為次年度に検討実施していく。 2) ①研究・院外発表とも2例ずつ支援できた。②患者環境をテーマに看護補助者研修講義・グループワーク実施。全員参加。③中途採用者マニュアルの見直し。今後活用していく。④手順・遂行過程などマニュアル見直し出来た。 3) 事例・理論・ラダーレベル別指導は各部署で担当を決定し、対応した。指導側の思いと受け手側の温度差はそれぞれではあるが今後の課題。 ②所属での差はあるが、工夫しながらの視聴を促せた。スタッフの自主性による視聴率の向上は困難との感想があつた。
教 育 部 門	教 育	①年間教育研修計画を実施する。 ②研修担当者はOFF-JTとOJTを連動させる。 ③教育担当者の知識の向上をはかる。	①計画に従って100%実施することができた。 計画、実施、評価まで実施できた。 ②チーム会にて研修内容、研修参加者等伝え、病棟においても活用できるように発信したが、実践に結び付かなかった。今後は、研修後の記録用紙の改善を図り、具体的に実施できる内容を記載してもらったり、所属ミーティングで振り返る機会をつくるなど検討。 ③各自、講師となり研修をすすめることはできた。次年度は、新たな委員も増えてきているので、シリーズでインストラクデザインなどシリーズ化して勉強会を重ねて知識向上に努める。
業 務 部 門	記 録	①記録の充実を図る ②教育の充実 ③看護必要度に関する記録の充実を図る	①ラダーレベルに応じた形式の監査は100%、・質の監査は81%実施できた。退職予定者の中には実施できないものもいた。日々の記録は病棟・透析とも、年2回実施できた。記載基準の見直し、修正を行えた。 ②記載基準に則った記録についてと看護診断についての研修を企画し、全体研修として3回実施した。今後は、自己研鑽にも力を入れたい。 ③必要度監査シートを用いて年2回行えた。今後も改訂に合わせて見直し・修正を行っていく。
	退 院 支 援	①各部署の特性を踏まえた退院支援が行え、在宅ケア(及び施設など)に繋ぐことができる ②多職種連携や退院支援システムに対応できるスタッフの育成。 ③退院支援に関わる加算を確実にとっていく	①各部署が自部署の役割を理解し、地域連携を通じて退院支援を行えた。他部署・他施設・在宅との連携支援を委員会を中心に行なった。 ②各部署内での退院支援システムの説明。退院支援事例の検討会。を実施。外部研修(看護連携会議の事例検討会など)への参加が多数あつた。今後、参加者の感想を依頼し、反応や学びを知る。ラダーレベルに合わせた退院支援事例レポート提出への支援も行っていく。 ③地域連携と協働に必要な書類の提出記入、退院支援カンファレンス・退院調整室カンファレンスが行えた。
	感 染 看 護	①ICTチームと連携を取って院内感染対策に努める ②病院職員の感染対策における意識の向上を図る ③感染対策について啓発に努める	①ICTラウンドで行う環境チェック項目を、各所属でもモニタリングし報告することが出来た。マニュアルはの見直しは行えなかったが、今後ICTと相談し行っていく方向。 ②昨年のインフルエンザの集団感染の反省や、新型コロナウイルス対策で看護師だけでなく、コメディカルも意識は非常に高まっていた。 ③インフルエンザが今年は早期から流行の兆しがあつたので、いち早くポスター掲示や、呼びかけが行えた。感染の広報もタイムリーに行えた。
	リ ス ク	患者様の安全を守り看護の質の向上に努める ①医療レベル4以上が発生しない ②マニュアルの見直し・追加 ③SHELL分析により対策立案・実行する ④患者誤認アクシデントをゼロにする	①レベル4以上は発生しなかった。レベルの妥当性について検討が必要な事例もある。 ②マニュアルを見直し、初回抗生剤におけるリスクマニュアルを新たに作成し、実践している。 ③各所属毎にシェル分析を行い、対策を立て実践した。実践後の確認が行えなかった。 ④毎月集計を行い、委員会でも振り返りを行った。周知が必要な内容は委員が詰所会などで報告した。 ⑤誤認アクシデントは発生しなかったが、手順やマニュアルを遵守しなかったことによるインシデントは発生しており、レベルに関わらず誤認事例についてはシェル分析を行った。
	褥 瘡	1.j褥瘡ケアの質の向上と維持 ①褥瘡ケアの共通認識ができる ②褥瘡患者状況把握と物品管理をし、委員としての認識を高める ③マニュアルの見直し	・毎月の委員会でも褥瘡患者を把握し、処置内容や経過について情報共有し共通認識を高めることができた。 ・電カル導入後の、マニュアルの整備ができた。 ・物品については、必要時CEに、点検、修理依頼し適切に管理できた。
	災 害 対 策	①看護局災害対策マニュアルを各部署で周知 ②院内災害対策整備に向けて管理課担当者と共同活動できる ③災害対応できる人材の育成	①各部署でそれぞれ活動。 委員会でもマニュアルにCSCATTTを入れる話はしたが、まだ入れられていない。 ②今年度は長浜市災害訓練参加の他に、自施設で原子力災害対応訓練あり。それに向けて協働。訓練後の振り返りは看護師のみでアンケート方式で実施、各部署へ配布。 ③以下の訓練・研修に参加。 長浜市防災訓練：中村Ns山口Ns、災害看護基礎編：柴田Ns・増田Ns、災害支援Ns研修：中・庄Ns・中村Ns、長浜市赤での訓練：前田理事、研修センター管理職への研修：岩井
	看 護 師 確 保	看護師募集に関し、広報活動を行う ①合同就職説明会に参加する ②使用している冊子、パンフレットの見直し	①合同就職説明会は新型コロナウイルス肺炎により3/8から4/12へ延期となった。委員は次年度よりインターンシップを受けることとなりB病棟2人、トータル5名とした。 ②説明会に使用している冊子、パンフレットの見直しを行い、適宜差し替えを行った。またパンフレットも変更部分とコメントの差し替えを行った。

看護宅配便（出前講座）実施内容

	実施日	場所	内容	対象者	参加者	担当
第1回	4月18日	長浜市社会福祉協議会 木之本センター	2025年問題と人生会議	介護者のつどい	23	海津 小森 (村上)
	10：45～11：45					
第2回	4月20日	祝山会館	高血圧	サロン楽園	9	桐畑 武田 (居川)
	13：00～14：00					
第3回	5月23日	積善館 (坂口公民館)	認知症	老人会	30	矢守 馬場
	10：30～11：30					
第4回	6月16日	東野横町集会場	認知症	延寿会	32	馬場 奥出
	10：30～11：30					
第5回	6月18日	サンパレス長浜	熱中症対策	新日本婦人の会 長浜支部	32	秋野 五町森
	10：00～11：00					
第6回	6月20日	昭和館	2025年問題と人生会議	柏原同心会	31	桐畑 海津 小森
	10：30～11：30					
第7回	6月27日	長浜市社会福祉協議会 木之本センター	2025年問題と人生会議	木之本老人クラブ	100	海津 (納谷)
	14：00～15：30					
第8回	7月16日	安養寺町 ふれあい会館	熱中症対策	安養寺町 ふれあいサークル	23	秋野 五町森
	13：30～14：30					
第9回	9月16日	コミュニティーセンター やまびこ会館	DM	区民	42	武田 奥出
	10：00～11：30					
第10回	10月2日	こぶし会館	認知症	老人クラブ	52	馬場 地域包括
	10：00～11：00					
第11回	11月13日	余呉まちづくりセンター	高血圧	地域まちづくり協議会	16	武田 桐畑
	13：30～14：30					
第12回	11月19日	サンパレス長浜	認知症	新日本婦人の会 長浜支部	18	秋野 馬場
	10：00～11：00					
第13回	11月22日	高畑会館	DM	高畑サロン みんなよろな	27	矢守 武田
	13：00～14：00					
第14回	12月11日	余呉まちづくりセンター	認知症	地域まちづくり協議会	30	馬場
	13：30～14：30					
第15回	1月8日	余呉まちづくりセンター	脂質異常	地域まちづくり協議会	25	武田 秋野
	13：30～14：30					
第16回	2月12日	余呉まちづくりセンター	DM	地域まちづくり協議会	22	武田 桐畑
	13：30～14：30					
第17回	3月11日	余呉まちづくりセンター	骨粗鬆症 (老健：やさしい認知症介護)	地域まちづくり協議会	10～24	武田 石田 杉森
	13：30～14：30					

臨地実習受け入れ状況

滋賀県立看護専門学校

期間	実習区分	実習場所	受け入れ人数
5/26～6/27	在宅	訪問看護ステーション	3名
7/5～7/23	老年Ⅱ	A・B病棟	6名
7/25・26	老年Ⅰ	老健	6名
7/25・26	老年Ⅰ	療養病棟	6名
7/29・30	老年Ⅰ	老健	7名
7/29・30	老年Ⅰ	療養病棟	6名
9/5～9/19	老年Ⅰ	A・B病棟	6名
9/24～10/9	老年Ⅱ	A・B病棟	6名
10/15～10/21	基礎Ⅰ	A・B病棟	6名
11/14～11/26	在宅	訪問看護ステーション	3名

看護研究発表・実践発表

月 日	発表場所	発表テーマ	部署	研究者
6月8日	日本老年看護学会学術集会	多職種を対象とした認知症研修に取り組み	認知症看護認定看護師	馬場直哉
8月4日	滋賀県国保地域医療学会	認知症患者の排泄方法選択の支援 ～退院支援を通じて感じたジレンマ～	B病棟	民徳亜衣
12月4日	看護局事例発表会 (理論で振り返る) (院内)	脳梗塞後の血管性認知症患者への関わり ～協働的パートナーシップ理論を用いての検討～	B病棟	渡辺真利子
		脳出血患者の退院に向けた支援と退院後の継続的なかわり ～ペプロウの人間関係の看護論を用いて～	透析	藤田章汰
		人工呼吸器装着・気管切開患者への看護の妥当性の検討 ～深い症状理論を用いて～	A病棟	染井静霞
		終末期患者へのアピーペインスケールを用いた関わり ～深い症状理論を用いての考察～	B病棟	今井凜
		在宅へ退院される患者家族への指導を振り返る ～渡辺式家族アセスメントモデルを用いて～	R病棟	酒井真実
		ボディイメージの変容した患者の心理的な返還と需要に向けた取組 ～フィンの機器モデルを用いて学んだこと～	A病棟	白谷優至
		廃用症候群の患者のQOLを向上するための関わり ～協働的パートナーシップ理論を用いて～	A病棟	北村絵里香
		長期療養による抑うつ傾向となった患者とのかかわり ～バンデュラーの自己効力感の理論を用いて～	R病棟	桂田和人
		ターミナルのがん患者と家族、看護師のケアリングパートナーシップ ～マーガレット・ニューマン理論を用いて振り返る～	A病棟	仁賀愛衣
		透析導入患者に対する自己管理を促すための関わり ～病みの軌跡理論を用いて振り返る～	透析	沢本優香
		増悪と緩和を繰り返す終末期のがん患者の希望を見出す介入 ～モースの病気体験における理論を用いて～	A病棟	伊藤美波
令和2年 1月27日	看護局管理者研修報告会 (院内)	看護管理者の役割 ～ファーストレベル受講後の学び～	B病棟	沢本孝美
		地域包括ケアにおける自施設の役割と自部署の役割 ～ファーストレベルを終了して～	訪看	奥出佳世子
		サー ドレレベル研修報告	看護局長室	前田優子
2月15日	日本医療マネジメント学会 京滋支部学術集会 (京都)	地域包括ケア病棟における若手看護師の育成支援	B病棟	福原聡子
		卒後2・3年目に対して能動的学習を取り入れた取り組み	A病棟	八木和美
2月17日	看護局看護研究発表会 (院内)	療養病棟の患者をとりまく環境 ～へき地医療拠点病院の現状～	R病棟	○宮川千瑛 橘周子
		せん妄予防対策を通じて ～せん妄予防ケアの実践と考察・看護師の対応力の変化～	A病棟	○三国宏子 川瀬真弓
		透析導入患者に対する自己管理を促すための関わり ～病みの軌跡理論を用いて振り返る～	透析	沢本優香
		廃用症候群の患者のQOLを向上するための関わり ～協働的パートナーシップ理論を用いて～	A病棟	北村絵里香

教育・研修

氏名	所属	教育・研修名	期間	場所
伊吹美加	地連	医療安全管理者養成講座 (eラーニング)	5/1～10/31 集合研修9/28	大坂
奥出佳世子	訪看	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	6/4～7/18	滋賀県看護協会
沢本孝美	B病棟	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	6/4～7/18	滋賀県看護協会
佃樹美子	A病棟	研究サポートリーダー研修	6/1・26・7/17・24・8/1	滋賀県看護協会
吉田伸子	透析	フットケア研修	2020/1/10・11	京都看護協会
沢尾有美	B病棟	排尿自立支援指導料研修	8/2～8/4	東京
片桐典子	B病棟	NST研修	8/1・8・15・22・29	滋賀医科大学
田中留美子	A病棟	NST研修	10/16・17・23・24・30	近江八幡医療センター
前田優子	看護局長室	認定看護管理者教育課程 サードレベル	9/18～11/27	大阪府看護協会

看護師確保対策

病院見学開催実績

実施回数	実施日	参加者所属	参加者
第1回	5月25日	滋賀県立看護専門学校・滋賀県立総合保健専門学校	4名
第2回	6月17日	奈良の大学	1名
第3回	7月6日	滋賀県立看護専門学校・草津看護学校・既卒	3名
第4回	8月17日	京都看護大学	3名

インターンシップ開催実績

実施回数	実施日	参加者所属	参加者
第1回	5月11日	滋賀県立看護専門学校・滋賀県立総合保健専門学校	4名
第2回	8月3日	滋賀県立看護専門学校・聖泉大学	9名
第3回	3月21日	コロナ関連にて中止（参加希望者9名）	

高校生1日看護体験受け入れ実績

実施回数	実施日	参加者所属	参加者
第1回	7月26日	長浜北高校・虎姫高校	3名

看護師募集説明会参加実績

	実施日	実施場所	参加者
第1回	4 月 6 日	病院合同就職説明会（コラボしが21）	60名
第2回	8 月 2 日	県立看護専門学校オープンキャンパス	8名
第3回	8 月 6 日	看護職員就職説明会（米原文化産業交流会館）	26名
第4回	9 月 2 8 日	京都看護大学合同就職ガイダンス	90名
第5回	1 0 月 1 日	敦賀看護大学医療施設説明会	6名
第6回	3 月 8 日	病院合同就職説明会（コラボしが21）	延期

外来・手術室（中央材料室）

■ 職員

科長	岩井 幸	主査	久保田 あゆみ
主幹	馬場 直哉（認知症認定看護師）	主査	岩佐 かすみ
医療技術局主査	柴田 慎治		

平成 30 年度 9 月から禁煙外来が、職員対象で始動しました。今年度は、対象を一般患者に拡大し、5 名の実績（相談対応も 4 名あり）ができました。患者さんの個性に合わせて、2 名の看護師が協力して対応できました。今年度で担当医師が異動となったため、令和 2 年度から、禁煙外来は休止となりました。

■ 令和元年度目標

1. 安全安楽な受診環境を提供するために診察介助に必要な知識と技術の向上を図る
以下の勉強会の実施
①S-BAR ②救急看護（1 人での救急対応と継続観察、急変対応、災害学習）
③呼吸管理デバイス ④振り返り
2. 働き方改革を目指した就労環境の整備
(1) 超過勤務時間削減のために業務のスリム化を図る（内視鏡室・OP 室）
①内視鏡検査説明・前準備の見直し ②OP 室応援 Ns の定着
(2) 年次休暇 10 日以上（正規）を計画的に取得する
3. 接遇力を高めて自施設のイメージアップをはかり、患者離れを防ぐ
①接遇アンケート結果の活用 ②高齢者（認知症）対応力の向上

■ 評価

1. 振り返り用紙とシャドーイングで評価しました。
①7 月に S-BAR 勉強会を実施しました。2 月の実施状況調査では、報告時に意識づけが一部のスタッフにはできましたが、実践までは不十分でした。
②6 月に災害初動対応について、9 月に AED について、2 月に挿管介助等についての勉強会を実施しました。
③5 月にネイザルハイフローの勉強会を実施しました。その後、キットを救急対応ベッド横に設置し、周知しました。
2. (1) 第 2 内視鏡室ができたことにより、並列での実施が可能となったことと、内視鏡手術件数の若干の減少により、内視鏡室担当者の超過勤務は減少しました。OP 室は、長時間手術時以外は減少しました。
①大腸内視鏡検査前処置時の排便確認・腹部マッサージ・左側臥位について再度学習を実施できました。その際 CSP 導入のための勉強会も実施できました。CSP 件数は増加しています。
②OP 室の応援業務の洗い出しはできましたが、学習や経験の機会は持てませんでした。眼科白内障手術の外回り A 業務（患者観察・記録）は、眼科 Ns2 名が対応できるようになりました。
- (2) 正規職員は全員 10 日以上取得できました。
3. ①接遇に対するクレームはありませんでした。
②診察室での椅子への着席時に転倒・転落のインシデントが 2 件ありました。そのため、2 月に高齢者の身体的特徴をふまえた勉強会を実施しました。日々の業務の中で、スタッフに、ゆっくりわかりやすく話すことが浸透しつつあります。

■ カンファレンス等

昨年度から、チーム会でカンファレンスの開催に取り組んでいます。今年度は、カンファレンスの記録を電子カルテに残すことを目標としました。病棟のカンファレンス記録方法を参考にして、チームリーダーを中心に記録に残せるようになりました。また、各科外来や OP 室などの単位で患者情報の共有に取り組むなど、カンファレンスを主とした行動が定着してきました。

A病棟

■ 職員

科長	南部	里香	主幹	大久保	はる美
主査	谷口	早苗	主査	三國	宏子
主査	伊藤	安喜	主査	八木	和美
主査	田中	ミユキ			

■ 業務実績

病棟管理目標

- I. 急性期看護についての知識・技術が高められ、安全で確実な看護を提供します
 - 1) 統一した周術期看護を実施します
 - 2) 日常的に行っているアセスメントから急変の予測をします
 - 3) 急性期せん妄患者さんの看護を行います
- II. 看護師としての役割責任を認識し、患者・家族からの信頼向上を図ります
 - 1) レベル 3b 以上のリスクを起こしません
 - 2) 患者の特殊性を理解した上で、急性期の患者に対する災害対応ができるようにします
- III. 業務改善を行います
 - 1) 申し送りを短縮するため、ミニカンファレンスを充実させ、次の業務へとスムーズに移行できるようにします
 - 2) 看護補助者と連携を図り、円滑に業務が行えるようにします
 - 3) 的確な判断ができる人材育成に取り組みます
- IV. 経営意識をもったコスト管理を行います
 - 1) 看護必要度 I : 30% 以上、平均在院日数 18 日以内、在宅復帰率 8 割以上を目指します
 - 2) 汎用の取り漏れを防ぎます
 - 3) コスト意識を持ち、無駄な経費を削減します

■ 評価

- I 急性期看護についての知識・技術が高められ、安全で確実な看護を提供します
 - 1) 周術期看護について勉強会を開催し、術後の早期離床やドレーン管理も行えるようになりました。泌尿器科患者用のパンフレットの見直しを行い、整形外科患者用のパンフレットと共に活用しました。
 - 2) BLS 研修を年間 2 回開催し、急変時の対応ができるよう育成しています。また、意識障害発見時の鑑別方法一覧を作成し、閲覧・活用しやすくしました。
 - 3) ニーチャム混乱/錯乱状態スケールを活用することで、せん妄が遷延することがなくなりました。
- II 看護師としての役割・責任を認識し、患者・家族からの信頼向上を図ります
 - 1) 詰所会やチーム会でシャドウウィングや患者誤認マニュアルの読み合わせを行うことで意識付けに繋がり、患者誤認アクシデントは残念ながら発生しましたが、その都度 SHELL 分析を行い、対策を講じました。
 - 2) 災害時チェックリストをもとに 2 回/年の病棟ラウンドを行いました。災害対策パンフレットを作成し、患者一覧表を毎日提示することで、災害発生時に活用できるようにしています。
- III 業務改善を行います
 - 1) ミニカンファレンス基準を作成し、ミニカードにして携帯しやすくしてスタッフに配布しました。また、時間管理も行えるようになりました。

- 2) 看護補助者の中で日々のリーダーを決定して、連絡事項等は科長から伝えることで連携して業務を行うようにしました。
- 3) 日々のリーダーは、時間内に業務が終了するように努め、超過勤務は減少しています。

IV 経営意識をもったコスト管理を行います

- 1) 早期から退院支援看護師と連携を行いましたが、データベースを補充するなどの情報を集める力が弱く、受け持ち意識の希薄さが今後の課題となりました。
- 2) 汎用一覧表を作成したことで、汎用の取りもれが減りましたが、多忙さから患者の衣服やコード類の整理などがなかなか行えなかったため、今後は患者満足度調査の意見を参考にし、病棟でも患者満足度が上がるように取り組みます。
- 3) NST や排尿ケアチームと連携を図ることができました。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均在院日数(日)	9.5	10.1	10.9	9.9	10.6	10.6	12.8	11.5	12.6	11.8	11.7	12.0
病床利用率(%)	78.7	83.6	77.1	87.6	89.1	80.4	84.0	88.0	81.0	82.0	74.0	68.0
月平均入院患者数(人)	38	40	37	42	43	39	40	42	39	39	36	33

B病棟

■ 職員

科長： 矢守 聡美 主幹： 福原 聡子 沢本 孝美
主査： 伊藤 安芸 片桐 典子

■ 業務実績

病棟管理目標

1. 高齢患者を看る視点を高め多職種と連携し地域につなげる看護を実践します
 - ①認知症・高齢者のアセスメント能力を身につけます
 - ②多職種を含めた小チーム活動が実践します
2. キャリアラダーに応じた個人の能力向上と業務改善を行うことで働きやすい環境を作ります
 - ①地域包括ケア病棟看護師としての役割を自覚し、ラダーレベルに合わせた自律した看護を行います
 - ②多職種協働による業務改善を行います
3. 地域包括ケア病棟としての役割を果たし病院経営に参画します
 - ①退院困難患者の減少を図ります
 - ②地域や他部署との連携を強化し有効な病床利用をすすめます

■ 評価

1. 高齢患者を看る視点を高め多職種と連携し地域につなげる看護を実践します
 - ①事例や理論を通してアセスメント能力を身につけることができ、またチーム会にて共有することができました。患者家族が望む退院支援を進めるため、早期に問題点を明確にしようと在宅支援依頼票を用いたカンファレンスが行えるようになってきています。今後在宅支援依頼票を活用し考えることでアセスメント能力が向上することができるのが課題となります。経験年数の差などにより支援の程度は違いますが、地域につなげるという事を意識しながらサマリー記載が出来るようになってきています。
 - ②チーム会で症例検討や勉強会など患者の看護に繋がれる学びの場を設けることができました。
 - ③小チームの人員が減るなどが原因で積極的に進めることができなかった小チームもありますが、目標や活動内容を見直しながら活動が行えました
2. キャリアラダーに応じた個人の能力向上と業務改善を行うことで働きやすい職場環境を作ります
 - ①メンバーの入れ替えなど若手看護師が増える中で、地域包括ケア病棟看護師としての育成を図るため、地域包括ケア病棟育成指標を作成しました。
 - ②個人目標の達成や課題の取り組むことは個人差があり、支援が必要でした。地域包括ケア病棟育成支援指標を作成できたので次年度は指標にそって支援を図り、育成に対しての問題点を明確にすることを課題とします。
 - ③詰所会の前など看護補助者の意見を聞く機会を設けています。看護補助者の協力のもと業務改善が図れており、今後も看護補助者の意見を吸い上げ、協働します。
3. 地域包括ケア病棟としての役割を果たし病院経営に参画します
 - ①地域包括ケア病棟としての基準は達成できました。
 - ②メンバーの退職者などがあり、情報収集が遅くなり、調整困難になることがあるため、入院時から受け持ち意識を持ち、地連と連携し柔軟な対応をしていけるようにすることが課題です。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一日平均患者数	24.03	24.45	23.83	27.32	31.55	24.70	29.71	30.23	30.23	31.42	21.24	24.06
在院日数	20.75	22.84	18.90	18.47	24.29	28.53	29.13	21.53	25.48	27.19	24.85	27.88
稼働率	68.67	69.86	68.10	78.06	90.14	70.75	84.88	86.38	86.36	89.77	60.69	68.76
在宅復帰率	87.88	82.76	97.30	97.22	97.44	84.00	96.00	89.74	83.87	87.88	87.50	91.30

療養病棟

■ 職員

秋野 あけみ 科長補佐 山田 真由美 主幹
脇坂 ひろみ 主幹 橘 周子 主査 佃 樹美子 主査

■ 業務実績

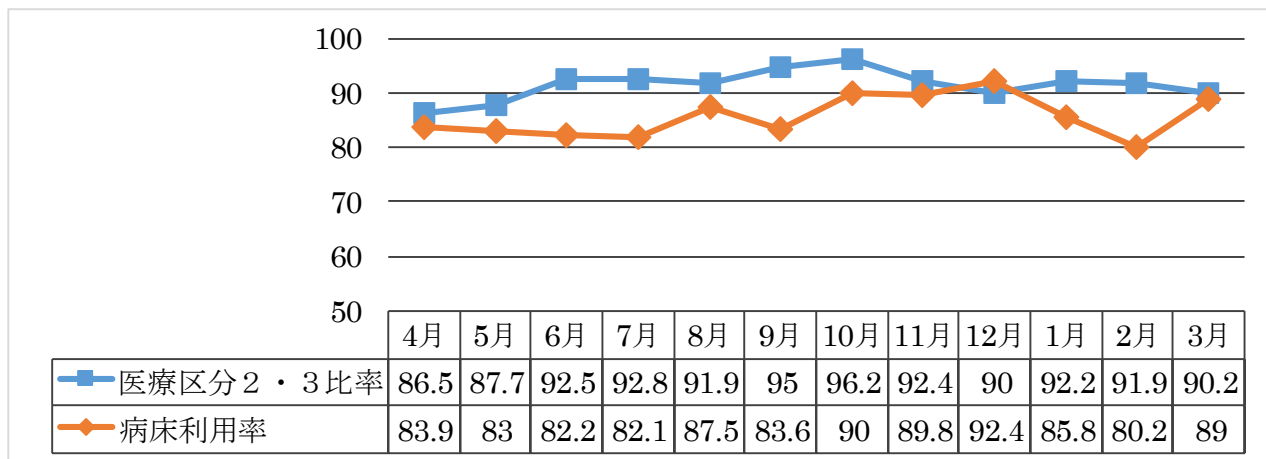
病棟看護目標

1. 安心で安全な療養環境の提供
療養病棟の特性を理解し、多職種によるチーム医療の構築
①病棟内リスク発生アクシデントを0にする
②チーム活動の充実
小チーム活動による質の担保
主体性をもった活動ができる
③災害発生時対応能力の育成
2. 働き方改革を目指した就労環境の整備
レベルに応じたスキルアップを図り職種と個々を活かした職場環境の整備
①個々のキャリアに合った自己目標の達成
②業務のスリム化
③ワーカー活動の充実
3. 病院経営への参画
①医療型療養病棟入院基本料1を維持する
②ベッドコントロールを行い、患者数52名を目指す

■ 評価

1. 安心で安全な療養環境の提供
 - シエル分析4・7・9・11月に実施しました
 - ジェル使用率維持できました。正しい手洗いについて再指導しました。
 - 防災マニュアルの口頭での説明・病棟内構造ラウンドからの疑問点や対策についての話し合いを行いました
 - 各種学習会の実施・実践レポートの提出による経験学習ができました。多職種が協力し、情報交換が重要であることの認識が深まりました。
2. 働き方改革を目指した就労環境の整備
 - 時期に合った指導が行えました。
 - 新人指導に関して技術の実施の可視化ができました。
 - 多職種での検討をし、業務改善に取り組みました。患者数の増加、医療依存度が高い患者の増加に伴い、業務改善の必要性がありました。入浴業務・患者誤認対策・透析患者保清・環境整備（患者・病棟内）・インスリン注射カートの管理・点滴業務など、業務改善やそれに関わる物品管理についても行いました。
 - 季節のイベント開催時間の調整を行い、多職種が協力して実施しました。参加患者の検討、参加後写真をアルバムにしてのサービスも行いました。
3. 病院経営への参画
 -)医療区分2.3の割合年間平均91.6%維持しました。平均入院患者数 年間平均 48.9人 前年度より4名増加することができました。

療養病棟利用率と医療区分2・3が占める割合



■ カンファレンス等

- カンファレンス・・・平日毎日
- リハビリカンファレンス・・・第3金曜日
- 院内デイケア・・・毎週土曜日 認知症認定看護師と一緒に実施するようになりました。
8月には縁日、10月には運動会、12月にはクリスマス会を行いました。
- お誕生会・・・月末 誕生月の患者さんに、カードを作りお渡ししています。
ゲームや歌で楽しく過ごしていただいています。



人工透析センター

■ 職員

科長 五町森ひろみ 主査 是洞 真里子

■ 業務実績

業績目標

- I 透析を行いながら生活する患者を支援する力の向上
 - 1) 専門的知識の向上
 - 2) アセスメント能力の向上
 - 3) 他職種・他部門と連携し、継続看護の知識を深め生活を支援できる
- II 他職種が協力し、安全な透析を提供できる体制を整える
 - 1) プライミング業務のスリム化
年次休暇取得率向上
 - 2) 計画的な有意義な有給が取得できる
- III 病院経営に参画する
 - 1) 加算の算定漏れを防止する
 - 2) 透析延べ件数目標をクリアする
年間 8083 件 月約 680 件

■ 評価

- I 9月に透析教室を開催し、フットケアについて説明しました。また、合併症予防のためにフットチェックは重要であり、フットケア研修を終了した看護師を中心に日々のチェック体制を整えました。
栄養について1回/月程度医師とカンファレンスを行い、栄養状態の支援を行っています。
高齢化が進み、介護サービス導入や入院される方について入院中の合同カンファレンスに参加しています。病棟看護師と情報を共有し、在宅へとつないでいます。
- II プライミングを行わなければ透析を開始することが出来ないため、朝のプライミング業務に多くの時間を費やしています。プライミングチェック方法や他職種との協同について見直していきたいと思います。
- III 導入期加算が2→1となりましたが、必要な方には取得することができました。また、医事課と連携し、障害加算など取りもれがないように連携しています。
透析延べ件数は目標値大きく上回り前年度以上に増加しました。

■ 実績

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
透析延べ件数	824	884	800	835	789	744	806	774	795	822	768	802

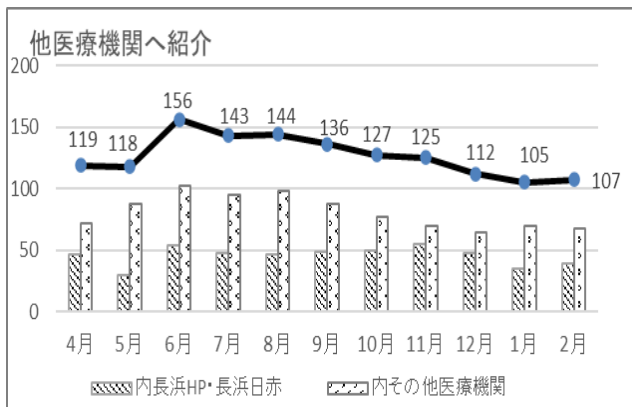
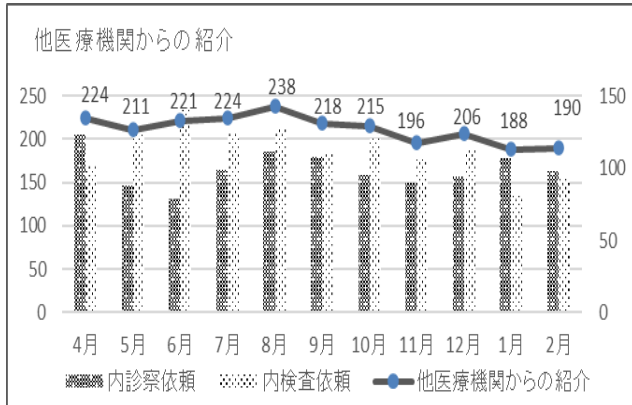
計 9,643 件

・地域包括ケア事業部

地域医療連携室

■ 業務実績

前方連携として、円滑な病診連携を図り令和元年度は 2504 件の紹介があり、逆紹介 1500 件の実績となりました。



後方連携として、退院調整業務を行い、地域の医療・介護との円滑な連携を図るため看護局と協同し、下記目標設定・評価を行っています。

<看護局退院調整部門の目標>

1、安全で安心な療養環境の提供

- 1) 多職種との連携を密にして、地域と切れ目の無い円滑な退院調整・支援が出来る
 - 2) 人材育成 ①退院調整Gのスキルアップ ②病棟スタッフへのスキルアップの働きかけ
- 《評価》

- 1) 外部との情報交換 2317 件（目標比 115.8%）/4-R2.1 平均 231 件/月（目標比 143.7%）
積極的に情報交換を実施でき、目標数をクリア
- 介護指導連携指導加算 309 件（目標 103%）4-R2.1 月 平均 30.9 件/月（目標 123.6%）

- 2) 外部研修・会議の参加は 47 件あり、一人平均で 11.75 件参加（目標 235%）
退院支援・調整を積極的に実施。外部研修・会議にも参加できた。

2、働き方改革を目指した就労環境の整備

- 1) 年次休暇取得率向上
- 2) 業務のスリム化と負担軽減

《評価》

- 1) 年間有給休暇の 5 日取得はクリア。リフレッシュ休暇取得については、3 月末で取得クリア。
ワークライフバランスを考え、効果的な休暇取得を目指し、3 連休以上の休暇取得を全スタッフに行った。休暇中のサポートは他のスタッフがフォローできるよう、お互いに相談し対応できた。
- 2) 毎月 MT を実施して情報共有を図った。また業務整理やマニュアル化を行い、スリム化を検討。

3、病院経営に参加する

- 1) 各病棟基準に合わせた、効果的なベットコントロール
- 2) 退院支援における適切な加算取得

《評価》

- 1) A 病棟 7:1 の確保 在宅復帰率月平均 97.54%
B 病棟 在宅復帰月平均 90.41 1 日平均 27.3 名
R 病棟 医療区分 3・2 比率月平均 91.7% 1 日平均 49 名
A・B・R 病棟の加算は問題なく維持することが出来た。

療養は転棟・転院患者受け入れが増え、患者数も増加し、一時月平均 52.7 人・病棟稼働率 92.47%まで上がった。1・2 月に死亡退院・特養入所が続き現在減少傾向。患者数の増減についてコントロール難しいことが今後の課題。

- 2) 退院支援加算 413 件（目標比 103.2%） 4-R2.1 月平均 41.3 件実施（目標比 125.1%）
介護指導連携指導加算件 309 件（目標 103%）4-R2.1 月 平均 30.9 件/月（目標 123.6%）
実施漏れはなし

木之本余呉西浅井地域包括支援センター

■ 業務実績

平成 31 年 1 月より長浜市より湖北病院が委託を受け、地域医療連携室・訪問看護ステーションと並び地域包括ケア事業部に位置付けられ、地域の高齢介護事業として運営を引き継ぎました。

長浜市地域包括支援センター基本方針、取り組み計画として、

- 1、域包括支援センターの周知とネットワークの構築を推進する。
- 2、アマネジメントの充実を図る。
- 3、擁護支援の充実を図る。

と設定され、木之本余呉西浅井地域包括支援センターの基本方針・目標設定を行いました。

<基本方針>

僻地・高齢化の進む地域において、高齢者自身がその人らしく安心して暮らし続けられるよう、健康維持・介護予防支援の関わりを推進する。また医療・福祉の専門職や地域活動団体などとの関係強化を行い、介護が必要となった高齢者に適切なサービスを迅速に整え、また高齢者の権利が守れるような支援のネットワーク作りを推進する。

<令和元年度目標>

- ① 地域へ積極的に出向き、地域包括支援センターの役割周知を継続して実施する。
- ② 地域の現状把握と課題抽出を行い、解決に向け、地域包括ケアシステム構築を図れるようなネットワーク作りを行う。

《評価》

- 1、地域包括支援センターの周知とネットワークの構築を推進する。

今まで出向けていない各自治会を意識し、地域包括支援センターの役割周知や実態把握のための活動を行った。小さな自治会でサロンなどの集まりがない自治会へは出向くことが出来なかった。

出向けていない自治会/出向けた自治会

木之本：23 自治会中 11 ケ所 → 9 ケ所

余呉：19 自治会中 3 ケ所 → 2 ケ所

西浅井：20 自治会中 11 ケ所 → 8 ケ所

- 2、アマネジメントの充実を図る。

①プラン作成や内容精査時に、ほぼ全数において家族や地域とつながれるようインフォーマルサービスが盛り込まれているか、本人や家族の生きがいや役割について盛り込まれるように努められた。

②地域に資源が少ないエリアだが、その中でプランに基づいて、今あるインフォーマルサービスへのアプローチができた。

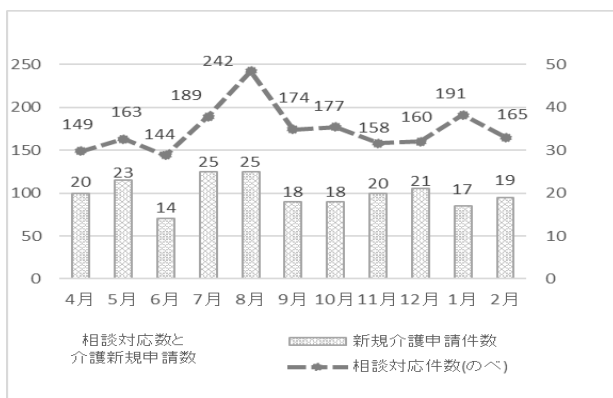
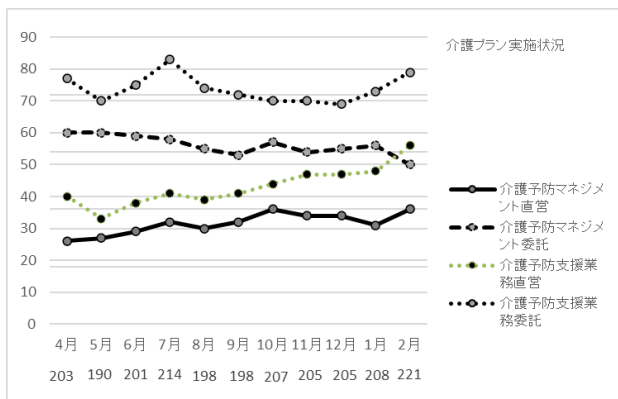
- 3、擁護支援の充実を図る。

虐待事例や経済的支援等、相談・支援を必要とするケースが増加している。適切な支援・介入が行えるよう、関係機関との連携強化が必要。権利を守るための施策等、職員が知識を深めていく必要がある。

介護予防プラン作成の状況は（下記左資料参照）、委託開始当時は 32.51%の直営プランであったが、令和元年度末には 42.31%まで伸びています。

また、相談ケースは（下記右資料参照）年間 2073 件に上り、長浜市内 5 包括の中で来訪による相談の比率が多く、湖北病院内に設置されたことで、受診や入院をきっかけとして相談につながっ

たと評価されています。



看護相談室

■ 職員 看護師 武田 真紀子

■ 業務実績

看護相談室は平成10年に開設しましたが、そのきっかけは、外来看護師の不足による在宅療養指導の不足でした。当初は、保健師と看護師の二人体制でしたが、平成11年から現在までは看護師1名（日本糖尿病療養指導士認定者）で業務を行っています。

糖尿病で自己注射が必要なケースでは在宅療養指導料の算定が可能です。個室で30分以上行うという条件があります。初月は2回／月、次月以降は1回／月の算定が可能で、1回当たり170点です。糖尿病透析指導管理料は、医師・管理栄養士・看護師がチームを組んで再開しています。腎症2-3期の患者に蓄尿で1日塩分量を測定して判断材料にしています。

また、8年前より糖尿病の患者に限り合併症管理料が算定できるようになりました。外来でのフットケアも個々に時間がかかり、仕事に見合うだけの点数ではありませんが、患者から「汚い足を診てくれた。」と信頼感が得られることもあります。壊疽の予防のための専門的な評価や判断が必要になってきます。

近年は、1型糖尿病の患者のインスリンポンプ療法や血糖持続モニターの管理や指導も行っています。さらに、2型糖尿病患者でも可能な血糖持続モニターもあり、糖尿病の自己管理も年々複雑になっています。

看護相談室で行う相談としては、診療報酬の算定が可能なものよりも算定できない悩み相談や病院の医療安全に関する様々な相談、医療相談などの件数が多いのも特徴です。

看護相談の業務には、平成11年から毎年開催している「糖尿病教室」の事務局の役割があり、予算の計上、計画、実施、評価をし、次回につなげています。（詳しくは糖尿病教室参照）

近年は、医療関係の糖尿病の自己測定機器などのデバイスなどの紹介や説明、説明会の依頼など医療MRとの相談などもあります。

令和元年度 看護相談延べ件数（単位：件）

月	件数	在宅療養指導料 算定件数	糖尿病合併症管理料 算定件数	糖尿病透析予防指導管理料 算定件数
4月	141	51	1	1
5月	99	36	0	1
6月	132	50	0	0
7月	136	39	0	1
8月	133	43	0	0
9月	134	36	0	0
10月	129	44	0	6
11月	107	34	0	1
12月	125	36	0	1
1月	131	38	0	0
2月	145	38	0	2
3月	160	39	0	2
合計	1572	484	1	15

訪問看護ステーション

■ 職員

主幹 奥出 佳世子
主査 竹原 緑
看護師常勤換算 6.2
理学療法士 1名
事務職 1名

■ 業務実績

管理目標

1. 安全で安心な療養環境を提供します
 - 1) 多職種との良好なコミュニケーションで安全、安心なサービスを提供します
 - 2) チーム医療を推進し看護の質を高めます
2. 働き方改革を目ざした就労環境を整備します
3. 病院経営への参画します
 - 1) ステーションの安定した運営を行います

■ 評価

1. インシデント・ヒヤリハット報告書は 100%提出できました。カンファレンスでの振り返りを行い事例共有しました。ナースィングサポートの視聴・外部研修受講をすすめますが不十分なため、学習できる環境を整えることが今後の課題です。
2. 有給5日の取得はできました。休憩時間の確保や超過勤務時間の削減が今後の課題です。
3. エリア内の新規依頼はなるべく断らずに受けるようにし、安定した運営を継続することができました。
 - ・月平均利用者数・・・96人
 - ・月平均訪問件数・・・480件
 - ・年間在宅見取り・・・5人

■ カンファレンス 毎週火曜日 13:15～

・健康管理センター

■ 職員

澤渡 智美 保健師

■ 業務実績

令和元年度健診実施状況

1. 実施件数

単位＝件

項 目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
日帰りドック	2	3	5	9	6	3	6	2	3	1	1	1	42
一般健診			1										1
オプション	4	9	16	28	18	16	18	11	10	8	9	12	159
生活習慣病予防健診	13	30	51	53	49	51	51	57	59	53	46	22	535
企業健診	5	14	28	14	27	19	18	19	14	9	9	38	214
特定健診		1	7	7	6	4	20	13	22	15	7		102
市子宮頸がん検診				1	1	4	2	2	6	13	6	3	38
市乳がん検診	8	1	1			7	3	2	1	2	5		30
計	32	58	109	112	107	104	118	106	115	101	83	76	1121

2. 収 益

単位＝円

項 目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
日帰りドック	80,120	120,180	200,300	360,540	240,360	120,180	244,860	81,620	122,430	40,810	40,810	40,810	1,693,020
一般健診			18,835										18,835
オプション	23,590	131,340	206,780	403,586	161,220	158,290	140,450	109,370	91,050	47,250	83,400	104,120	1,660,446
生活習慣病予防健診	202,971	443,162	882,644	973,108	846,626	926,169	875,370	994,808	1,054,513	964,897	845,602	415,443	9,425,313
企業健診	91,416	241,016	544,201	293,487	507,551	360,392	341,451	362,131	246,578	148,588	127,178	493,499	3,757,488
特定健診		8,368	55,809	55,081	30,824	34,470	127,553	102,835	185,649	145,147	61,185		806,921
市子宮頸がん検診				7,730	7,730	30,920	15,460	15,460	46,380	100,490	46,380	23,190	293,740
市乳がん検診	52,584	6,384	6,384			44,688	19,509	14,546	6,503	14,546	37,135		202,279
計	450,681	950,450	1,914,953	2,093,532	1,794,311	1,675,109	1,764,653	1,680,770	1,753,103	1,461,728	1,241,690	1,077,062	17,858,042

■ 評価

「保健・医療・福祉センター」構想に基づいて、平成18年に「健康管理センター」を開設しました。令和元年度における実施人数は1,121件、前年度対比00.2%の増となりましたが、収益は17,858千円、前年度対比1.8%の減となりました。

実施件数は過去最高となり、新規の企業からの申し込みも増えて来ています。当院の健診は、すべて外来部門を使用しての実施となるため、受入れに限界もありますが、今後も対応可能な範囲で件数及び収益増に向けて取り組みます。

◆ 介護老人保健施設

湖北やすらぎの里

看護師長

上松 智秋

湖北やすらぎの里 基本理念

1. 私たちは、利用者が住み慣れた地域で、安心して、安全に生活できるよう生活機能の維持向上をめざし総合的に支援します。
2. 私たちは、利用者の家族や地域の人々・関係機関と協力し、自立した在宅生活が続けられるよう支援します。

1.包括的ケアサービス施設

利用者の意思を尊重し、望ましい在宅または施設生活が過ごせるよう チームで支援します。そのため、利用者に応じた目標と支援計画を立て、必要な医療、看護や介護、リハビリテーションを提供します。

2.リハビリテーション施設

体力や基本動作能力の獲得、活動や参加の促進、家庭環境の調整など 生活機能向上を目的に、集中的な維持期リハビリテーションを行います。

3.在宅復帰施設

脳血管障害、廃用症候群、認知症等による個々の健康状態像に応じて、多職種からなるチームケアを行い、早期の在宅復帰に努めます。

4.在宅生活支援施設

自立した在宅生活が継続できるよう、介護予防に努め、入所や通所リハビリテーションのサービスを提供するとともに、地域の特性や利用者の状況に合わせて他サービス機関と連携して総合的に支援します。

5.地域に根ざした施設

家族や地域住民と交流し情報提供を行い、さまざまなケアの相談に対応します。市や各種事業者、保健・医療・福祉機関などと連携し、地域と一体となったケアを積極的に担います。また、評価・情報公開を積極的に行い、サービスの向上に努めます。

1. 超強化型を維持するために、運営戦略を立てて取り組みます。

具体的な行動

前年度に引き続き同じ目標をかかげたが、各委員会、各チーム会、各職種それぞれの立場から、具体的な行動目標を設定しました。結果、利用者の健康管理ができ事故防止ができ安全に生活できることで、超強化型を維持することができると考えました。

- 1、介護事故防止の啓発ポスター
- 2、感染防止の取り組み、ラビジェル使用料測定にて、感染対策の実施状態の把握
- 3、施設のなかの危険な箇所の早期発見の為、ラウンドする。
- 4、受け持ちが入所前後訪問に同行する。
- 5、積極的な実調をおこない、入所予定者の健康状態など医療面の情報収集
- 6、利用者の体調の変化など異常の早期発見、早期対応
- 7、デイケアマニュアルの整備
- 8、デイ増床に向けた受け入れ体制を構築する。

結果

- 1、啓発ポスターは、スタッフの意識の向上につながっています。
- 2、ラビジェル使用量の測定は、感染対策の実施状況が把握でき、標準予防策の徹底ができています。
- 3、毎月1回施設内をラウンドし、危険な場所があれば、改善できました。
- 4、60件訪問、自宅を訪問する事で退所を見据えた自立支援に繋げることができました。
- 5、6、多職種と連携し7～8割は実調に同行しました。
- 7、8、デイに関するマニュアル整備、業務改善などおこなう事ができました。

2. 安心した在宅生活を送るために、多職種が連携してケアサービスの向上を目指します。

具体的な行動

- 1 多職種が専門性を発揮し、利用者、家族が不安なく在宅復帰できるように支援する。
- 2、他職種との密接な連携・協働により、効果的なカンファレンスを開催する。
- 3、施設内外の研修会への参加、研究発表、実践報告等を積極的に行う。

結果

受け持ちカンファレンスが定着、各職種で情報共有でき個別性のあるケアに繋げることができました。

各委員会が主催し研修を実施しました。

感染対策研修2回開催、また委員は外部研修にも参加し知識、技術の習得に努めました。

口腔機能向上委員会は、誤嚥性肺炎の発症を予防するため、嚥下マッサージの勉強会を開催

嚥下マッサージの表を作成し、ケアの統一、継続に繋げました。

安全管理、身体拘束廃止委員会は年2回の研修を実施し、外部研修身体拘束ゼロセミナーに参加し、施設において研修を開催しました。

教育委員会主催でパート職員への研修（接遇、標準予防策、介護技術）を開催しました。

ケア向上委員会主催で、院内の認知症研修会を受講しています。

看護師は、利用者に合わせたアセスメントが出来るように、毎月担当をきめて全員でアセスメントすることで今まで以上に個性がでるようになりました。

3. 地域との交流を深め、超強化型施設として在宅支援を行います。

具体的な行動

- 1、地域の方々に情報の発信を行うとともに、地域貢献活動を行う。
- 2、医療・介護との連携、他施設との連携を図る。

結果

ボランティアの方に来ていただき、クラブ活動（歌）ができました。

チーム、ケア向上委員会共同で、病院展示スペースに利用者さんの作品を展示することが出来ました。

感染委員会からノロウイルス、インフルエンザの予防策、衛生管理についてまとめた資料を家族様に配布できました。

教育委員会は、出前講座のマニュアルを作成、各職種がいつでも出前講座に行くことができるように、資料を作成することが出来ました。

出前講座に行くこともできました。

ケア向上委員会は家族指導むけの「看取りパンフレット」を作成することができました。

看取りの研修（外部講師）の企画、調整もできましたが、コロナの影響で延期になりました。

○講習会／研修会への取り組み

◆ 糖尿病教室

看 護 師 武田 真紀子

■ 業務実績

年々、糖尿病患者は増加の一途ですが、当院は高齢糖尿病患者が非常に多い状況です。そこで、どうしたら糖尿病を理解できるかを考え、知識を習得し納得して療養できるのかを焦点に、1999年から集団で糖尿病教室を開催し、今年度は3回開催しました。事務局は糖尿病チームで、準備・設営・運営・参加者への案内などを実施、毎回評価し、次回につなげています。

5年前から糖尿病専門医の常勤医師が赴任され、その医師の指導の下、院内に糖尿病チームを立ち上げ、現在、看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・理学療法士の構成で13名のメンバーがそれぞれの専門性を生かした教室を開催しています。

メンバーにはCDE J 1名、元CDE Jが1名、滋賀糖尿病療養指導士が6名在籍し、切磋琢磨しつつ、専門知識をフル回転させています。

参加された患者様には感想を記入していただいております、大半が「良かった。また参加したい。新しいことがわかった。」という意見で、その他「こういうことも知りたい。」というアンケートの内容を、できるだけ反映できるようにしています。今後も、更に進化した内容の「患者が参加できる、ためになる教室」を目指して、患者さんだけでなく関わるスタッフも教室を通して、より深く知識を吸収できる機会となっています。

年間テーマ『糖尿病を悪化させないために』

第1回 6月8日 テーマ「試食会と食事療法の基本」

- ①「サルコペニア（筋肉量が低下すること）」 清水診療局長
- ②「個人にあったカロリーで試食会」 全員（看2・栄2・薬1・理1・臨1）
- ③「糖尿病の食事の基本を理解しよう！」 饗場管理栄養士 参加者：19名

第2回 9月28日 テーマ「雨天の運動療法」

- ①「糖尿病と認知症」 清水診療局長
- ②「雨天の効果的な室内運動の実践」 北川理学療法士
- ③「簡易骨密度測定」 不室放射線技師 参加者：8名

第3回 11月16日 テーマ「腎臓を守るために何をすればいいの？」

- ①「糖尿病性腎症って？守るために必要なこと」 武田看護師
- ②「腎臓が悪くても運動はしてもいいの？」 北川理学療法士
- ③「腎症の判断の検査は？」 澤臨床検査技師
- ④「糖尿病があると認知症になりやすいの？」 馬場認知症認定看護師 参加者：13名

◆湖北やすらぎの里内部研修

開催 年月日	研修会名	参加職種	参加人員	研修日数	研修内容
6月11日 6月20日	感染対策研修会（病院合同）	全職種	46名 (100%)	2日	アウトブレイクと日頃の環境整備・手指衛生について学ぶ
6月27日 7月5日	医療安全職員研修会（病院合同）	全職員	46名 (100%)	2日	医療事故を防ぐための大切な視点について学ぶ
6月27日 7月4日 7月11日	認知症、人権研修会（病院合同）	全職員	62名 (100%)	3日	認知症看護認定看護師より、高齢者と認知症利用者の人権について学ぶ
8月5日 ～ 8月10日	コンプライアンスと感染研修	臨時及び パート職員	16名 (100%)	6日間	認知症看護認定看護師より、高齢者と認知症利用者の人権について学ぶ
9月9日 9月14日	介護保険についての勉強会	全職員	44名 (100%)	2日	GWと講義方式で制度と超強化型老健の仕組みを学ぶ
10月8日 10月11日	第二回感染症対策研修会	全職員	47名 (100%)	2日	嘔吐処理の方法について実践を通して学ぶ
11月8日 11月12日	第二回安全管理研修会	全職員	43名 (100%)	2日	転倒事故事例をGWでディスカッションしながら対策や、多角的な視点での支援方法を学ぶ
2月11日 2月14日	身体拘束廃止研修会	全職員	38名 (86.2%)	2日	高齢者の疑似体験を通して、高齢者の気持ちを理解し、身体拘束をゼロにするきっかけづくりとする。
3月10日	ターミナル研修会	全職員	中止	1日	看取りの指針や支援内容について、パンフレットを用いて説明を行う。

◆ 湖北やすらぎの里外部研修

開催 年月日	研修会名	参加職種	参加人員	研修日数	研修内容
6月14日	介護老人保健施設職種別研修会（Ⅰ）	支援相談員 /介護士	3	1	講演および職種別グループ討論（意見交換）
7月8日	介護サービス事業者等 感染管理リスクマネジメント研修	介護士	2	1	感染管理の基礎と重要性を確認し、施設における安全な環境づくりと質の高い職員の育成を組織で目指す。
7月11日	高齢者施設等看護職員研修会	看護師	1	1	看護職能Ⅱの特徴を踏まえながら、職員をどう育成していくか、一緒に考え相談し合える関係づくりを目指す。
7月19日	介護サービス事業者等 感染管理リスクマネジメント研修	看護師 /理学療法士	2	1	感染管理の基礎と重要性を確認し、施設における安全な環境づくりと質の高い職員の育成を組織で目指す。
7月24日	認知症介護基礎研修	介護士	1	1	認知症ケアに携わる者が最低限の知識・技術と実践する際の考え方を習得し、サービスの提供を行うことを目指す。
8月27日	看護協会研修会	看護師	1	1	コミュニケーションギャップ等を解決する手技を学ぶとともに、自己のコミュニケーションの課題を見い出す。
9月17日	看護協会研修会	看護師	1	1	臨床瞑想法の基礎を理解し、これを活用して個人の自己省察を深める。
9月27日	近畿ブロック介護老人保健施設大会	介護士/事務職	2	1	新時代の幕開け-生きる-を楽しむ～心に寄り添って、尊厳のある生活を～
9月29日	滋賀県在宅医療推進サポート事業研修会	介護士	2	1	介護施設において、職員一人ひとりが多職種と協働しながら看取りを行うことを学ぶ。
10月6日	滋賀県在宅医療推進サポート事業研修会	介護士	1	1	食えることができない高齢者の食事を支えるために必要な基本知識や技術を多職種で学ぶ。
10月28日	介護老人保健施設階層別研修会（Ⅱ）		4	1	講演および階層別グループ討論（意見交換）
11月7日	福祉用具セミナー・展示体験会	理学療法士	1	1	ノーリフトケアに関する現状や福祉用具の新製品の情報を知り、実際の現場への利用について学ぶ。
11月16日	日本離床学会教育セミナー	作業療法士	1	1	高齢者個々の症状に根拠をもって対応する“フレイルケア”について、施設で活かせるケアやアプローチを学ぶ。
11月28日	身体拘束ゼロセミナー	介護士	2	1	「その人らしい暮らし」を実現するために、身体拘束廃止に関する知識の習得とケアの実践を目指す。
11月23日	看護協会看護管理者研修会	看護師	1	1	看護管理者のマネジメントラダーについて理解し、自己の管理実践能力の向上を目指す。
12月8日	滋賀県在宅医療推進サポート事業研修会	介護士	1	1	スキンテア（摩擦・ずれにより発生する外傷性創傷）と褥瘡の対応について多職種で学ぶ。
12月13日	看護協会研修会	看護師	1	1	急変発生時の自身の対応能力や現在の知識を確認することを目指す。
10月30日 11月12日 11月19日	介護分野で働く滋賀の福祉人育成研修	介護士	3	2	現場のチームリーダーとしてニーズの多様化や高度化を理解し、リーダーに必要な知識や技術を学ぶ。
1月21日	滋老健ケアマネ部会研修会	施設ケアマネ	1	1	事例検討を含め、施設ケアマネとして日頃悩んでいることなどを話し合う。
1月25日	滋賀県看護協会看護師職能委員会Ⅱ研修会	看護師	1	1	看護師に求められる「意思決定を支える力」を学ぶ機会とし、多様な利用者へのより良い支援ができることを目指す。
2月1日	嚥下調整食ブロック研修会	管理栄養士	1	1	摂食嚥下と嚥下調整食への理解を深める。
2月21日	滋老健在宅強化取り組み研修会	相談員	1	2	当施設を含む県内施設の在宅強化取り組み事例の発表と基調講演
2月22日	栄養ケアマネジメント研修会	管理栄養士	1	1	栄養ケアマネジメントの精度を上げ、利用者やご家族に信頼されるマネジメントの能力を養う。

○委員会の状況

○ 湖北病院

◆ 褥瘡対策委員会

- 委員長 齋藤 卓也
- 委員名 久保田あゆみ、白谷優至、田中留美子、脇坂勇輝、橘 周子、堀 順子、
稲舘清人、西川裕子、中川歩美、片桐典子（事務局）
- 目的 褥瘡発生予防及び発生時における対策を検討し、審議し、効率的な推進を図ります
- 活動方針 褥瘡に対する知識や情報収集を深め、効果的に活動する
- 活動内容・活動実績
 - 1. 看護局活動
 - ・毎月第2, 4月曜日に褥瘡回診を実施
皮膚医師、看護師にて回診を行い、デザインR計測にて評価、観察を行い治療方針決定。また、処置の内容、除圧マットの選定、栄養などのアドバイスを
 - ・月1回委員会の開催
褥瘡患者状況、除圧マットの使用状況、記録についてなど情報共有
 - 2. 院内褥瘡対策委員会活動
 - ・3ヶ月に1回、委員会開催
褥瘡患者状況、褥瘡発生率、除圧マットの使用状況の報告
委員としての自覚と情報共有の為、勉強会の実施

◆ 医療機器安全管理委員会

- 委員長 富樫 弘一
- 委員名 杉江祐貴、五町森ひろみ、小谷誠孝、塚田薫、藤原克徳、山内一登与（事務局）
- 目的 オンラインHDFを開始するためには、透析水質確保加算“2”を取得必要があり、基準を満たした透析液を使用していることに対する評価及び検討を行います。
- 活動方針 水質管理基準を遵守し、透析液の安全な水質管理を心掛ける為にも、透析機器の保守点検を実施し、より安全な透析治療を目指します。
- 活動内容
 - ・臨床工学技士による透析機器保守点検（日常・1回/週・1回/月）実施。
 - ・メーカー保守契約による定期点検（1回/年）実施の確認。
 - ・臨床工学技士による、ET（エンドトキシン）濃度、細菌数測定（全患者監視装置、1回/年）、及び評価。
 - ・定期的（6か月毎）なETRFの交換実施。

◆ 薬事委員会

- 委員長名 清水 真也
- 委員名 納谷佳男、富樫弘一、朝倉 透、中村貴士、田中正樹、常陸正則、北川裕之、
前田優子、堀 順子、久保田惣平（事務局）
- 目的 医薬品選定、購入及び管理の審議 薬事情報収集、その他薬事に関する審議
- 活動方針 医薬品情報を収集、医薬品の有効性、安全性、経済性等を検討し、適切な採用薬品の選定を行う。
- 活動内容・活動実績
 - 第1回 平成31年 4月15日
採用：アミティーザカプセル 12μg

仮採用：スチバーガ錠 40mg、ヌーカラ皮下注用 100m
院外仮採用：ネイリンカプセル 100mg、エプクルーサ配合錠
院内後発薬へ変更：トラムセット配合錠、ワイパックス錠 0.5mg、アルダクトンA錠 25mg
セレキノン錠 100mg
院外採用薬へ：ソランタール錠 100mg
院内用時購入へ：ニトラゼンローション 2%
院外処方箋：調剤薬局からの疑義照会について
疑義照会プロトコル作成について説明

第2回 令和元年 6月17日

採用：ヘパリンNaロック用（100単位/ml）シリンジ 10ml、アゾセミド錠 30mg
メマリーOD錠 5mg
院外仮採用：ロソーゼット配合錠 LD、パルモディア錠 0.1mg、トラディアン配合錠 AP
院内後発薬へ変更：ネスブ注射液 5、10、15、20、30、40、60、120、180μg
（オーソライズドジェネリック（AG）へ）
院内中止：オプソ内用液 10mg、オキノーム散 10mg、オキシコンチン錠 20mg
フェントステープ 4、6、8mg、オキファスト注 10mg、50mg
……必要時は限定薬として購入する。
院外採用薬へ：リンラキサー錠 125mg、クラリスロマイシンDS 10%小児用リバスタッチ 9mg

第3回 令和元年 8月19日

採用：ランソプラゾールOD錠 30mg、スルピリン注射液 250mg 25%1ml
院内仮採用：ラビピュール筋注用
院外仮採用：タリージェ錠 5、10mg
院外採用：エアーサロンパス 100ml/本
院外採用薬へ：タウリン散 98%大正、テトラミド錠 10mg、ハイペン錠 200mg、
セルベックスカプセル 50mg、スピロペント錠 10μg
採用薬一剤型変更：トラネキサム酸カプセル 250 ⇒トラネキサム酸錠 250へ変更
メキシレチン塩酸塩カプセル 100 ⇒メキシレチン塩酸塩錠 100へ

第4回 令和元年 10月28日

採用：ファモチジン注射用 10mg
院外仮採用：アジマイシン点眼液 1%
院外採用薬：プリモボラン錠 5mg
院内後発薬へ：アラセナA軟膏 3%、クラビット点眼液 1.5%、ミドリンP点眼液
中止薬品：20%ブドウ糖 20ml

第5回 令和元年 12月16日

採用：ミルタザピン錠 15mg
院外仮採用：ミニリンメルトOD錠 25μg、50μg
院内後発薬へ変更：ニコリン注 250mg、アドナ（静注用）100mg
中止薬品：アドナ注 25、パニマイシン注射液 100mg
一般名処方の発行に伴う 検査値・禁忌情報の付加について検討。

第6回 令和2年 2月17日

院外採用：アレジオンLX点眼液 0.1%
院外仮採用：タリージェ錠 5mg、トリンテリックッス錠 10mg、20mg、
レンビマカプセル 4mg、ラタノプロストPF点眼液 0.005%
院内後発薬へ変更：ダルベポエチンアルファシリンジ、注射用フサン 50、

サブラット血液ろ過用補充液、メンドカプセルセット(125-80-80)
 タナトリル錠 5mg、バルトレックス錠 500
 レミケード点滴静注 100・整形リウマチ患者に使用予定
 適応により先発と後発を使い分ける。

◆ 手術部運営委員会

- 委員長 朝倉 徹
- 委員名 納谷佳男、目片久隆、中村貴士、齋藤卓也、幸田重徳、桐畑明美、岩佐かすみ、岩井 幸（事務局）
- 目的 事務部門・外科系診療科・手術室看護部門で構成され、手術室の効果的な利用および手術室での医療事故(手術・麻酔・感染など)防止を目的としています。
- 活動方針 前年度の手術件数の報告や手術室運営への協力依頼のため、なるべく年度始めに開催しています。その後は、検討事項が生じた場合に関連機関を含め、不定期に実施しています。昨年度から、年2回の開催となりました。

○活動内容・活動実績

開催日時：第1回 平成31年4月22日（月）16:15～17:00

第2回 令和2年1月27日（月）16:30～17:05

内容：以下の内容について協議決定を行いました。

第1回協議内容

1. 委員長、副委員長の決定
2. 予定全身麻酔日（麻酔科医師来院日）変更について
3. 手術患者の感染症検査に HIV・梅毒が追加

第2回協議内容

1. 令和元年度の手術件数について
2. 病院間における「医療相互チェック」の提言について
3. 来年度の運営について

※手術件数 （件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
29	27	26	26	28	27	22	20	30	27	18	27	307

◆ 輸血療法委員会

- 委員長 富樫弘一
- 委員名 納谷佳男、澤渡雄二、榎田浩一、岩佐かすみ、八木和美、田中絹恵、森田 翔、澤 実津紀（事務局）
- 目的 輸血療法の適正な運用、円滑な管理体制の確率および輸血に関する医療事故防止を図る。
- 活動方針 輸血管理料Ⅱ取得のため年回6回の委員会を開催しています。
また、輸血適正加算の取得に努めています。
- 活動内容
 1. 活動内容

使用指針やマニュアルに準じた輸血療法の実施を促しています。

厚生労働省委託事業血液製剤使用実態調査・血液センター血液使用量アンケート調査に参加しました。
 2. 輸血療法委員会

奇数月の第一月曜日の17:30より開催しています。

主な内容は以下の通りです。

- 血液センターからの情報共有や資料配布
- 輸血に関する業務内容改善の検討
- 年間血液製剤の購入量・使用量・廃棄量と輸血副作用の集計と報告
- 症例の報告

3. 以下の研修会に参加しました。

- 福井県合同輸血療法委員会学術集会
日時：令和元年12月14日（土）
場所：福井県立歴史博物館
内容：輸血関連インシデントへの対応策の構築

◆ 防火・防災対策委員会

- 委員長 東野克巳
- 委員名 前田浩一、目方久隆、井ノ下雅貴、坪井房幸、山内一宏、北川奈津子、藤井翔太、山中里美、石崎健児、中川淑子、山内明美、槇田浩一、饗場順子、清水惣七、伊藤 恵、山口 哲（事務局）
- 目的 病院における防火管理業務の必要な事項を定め、火災、地震その他の災害の予防、人命の安全および被害の防止・軽減を図る。
- 活動内容
 - 4月：新規採用職員対象への防災教育（防火設備等の説明）
 - 8月：初期消火訓練（火災時の初期消火）
 - 3月：病院・老人保健施設合同総合防災訓練（夜間の火災を想定した初期活動・避難誘導）

◆ 人権教育推進委員会

- 委員長 目片久隆
- 委員名 久保田あゆみ、谷口早苗、片桐典子、高木悦子、西川純代、藤井翔太、赤井 充、小森葵希、饗場順子、饗場陽一、谷口あけ美、小林友幸、村上義幸（事務局）
- 目的 院内の人権対策を総合的に推進し、人権問題の解決に積極的に取り組む。
- 活動内容
 - 委員会の開催：12月 議題「研修会の開催について」
 - 研修会の開催：7月23日、8月1日、8月8日 議題『高齢者と認知症者の人権』
 - 《外部研修への参加》
 - 令和元年10月23日「同和対策事業特別措置法制定50周年記念集会」近江八幡市文化会館
 - 令和2年2月8日「部落解放研究第27回滋賀県集会」滋賀県立文化産業会館

◆ 給食委員会

- 委員長 齋藤 卓也
- 委員名 八坂亜季、桐畑明美、南部里香、秋野あけみ、矢守聡美、上松智秋、西川裕子、塚田 薫、中川 歩美（事務局）
- 目的 当院における給食業務を合理的且つ効果的に運営するため、必要な事項の審議を行い、業務の向上、改善を図る。
- 活動方針 定期的に委員会を開催し、職員間の知識、情報の共有や周知を図る。
- 活動内容
 - 1. 6月21日（金） 第1回給食委員会
 - ①現状報告（個別対応等）

- ②特食・療養食割合
- ③食事オーダー
- ④嗜好調査予定
- 2. 10月18日（金） 第2回給食委員会
 - ①現状報告（個別対応等）
 - ②特食・療養食割合
 - ③新規栄養補助食品の導入
 - ④食事オーダー
 - ⑤配膳・下膳に関して
- 3. 2月21日（金） 第3回給食委員会
 - ①現状報告（個別対応等）
 - ②特食・療養食割合
 - ③嗜好調査結果
 - ④インシデント事例
 - ⑤食札に関して

◆ 診療材料選定・SPD運営委員会

- 委員長 清水真也
- 副委員長 朝倉透
- 選定委員 齋藤卓也、桐畑明美、田中正樹、岩井 幸
- 運営委員 三國宏子、片桐典子、石崎美穂、文室淳子、山内一宏、脇坂勇輝、杉江祐貴、田淵美紀、西川裕子(事務局)
- 目的 当院の経営安定を目指し、院内の効率的な物品供給および在庫物品の適正化をはかり、SPDシステム運用等に関し必要な事項を決定します。
- 活動方針
 - ・各部署内の適正な在庫管理を行います
 - ・安定した診療、経営が行えるよう情報の共有および周知をはかります
- 活動内容・活動実績

随時各病棟、人工透析センター、救急室、各外来と物品定数を確認し合い、各部署内、SPDセンター内の適正な在庫管理に努めました。

◆ 医療機器等選定委員会

- 委員長 納谷佳男
- 副委員長 富樫弘一
- 選定委員 中村貴士、朝倉 透、北川裕之、桐畑明美、田中正樹、高岸浩治(事務局)
- 目的 長浜市立湖北病院において使用する医療機器の調達（修繕）、診療材料の購入等について、適正かつ円滑な運用を図る。
- 活動方針

下記の医療器、診療材料等についての選定、採用を決定します。

 - （1）契約予定金額が500万円以上の医療機器等購入（修繕）契約の機種の選定に関する事。
 - （2）契約予定金額が年額100万円以上の医療機器等賃貸借契約の機種の選定に関する事。
 - （3）契約予定金額が年額500万円以上の診療材料の選定に関する事。
 - （4）契約予定金額が年額100万円以上の診療材料の新規採用に関する事。
- 活動内容・活動実績

令和元年	5月10日	医療機器選定	X線骨密度測定装置一式
令和元年	7月 1日	医療機器選定	X線透視診断装置一式

令和元年 11月30日 医療機器選定 C T装置一式
 令和2年 2月 4日 医療機器選定（書面審査）C T装置一式
 令和2年 3月 7日 医療機器選定 C T装置一式

◆ 広報委員会

- 委員長 矢守達也
- 委員名 改田智子、齋藤卓也、横井 渉、西川純代、仁賀愛衣、前田真朋、赤井 充、柴垣 純子、高藤明寿香（事務局）
- 目的 院内での活動報告や各種案内、求人情報等を、診療に訪れた患者様やそのご家族、お見舞いの方に、また地域住民の方々に発信します。
- 活動内容
 - 広報「長浜市立湖北病院だより」の発行（年4回）
 - 院内外来および病棟に設置しています。
 - 出前健康セミナーでも、配布します。
- 活動実績
 - 第45号 5月7日発行
 - 内視鏡システムの紹介、内科新任医師の紹介、糖尿病教室のお知らせ、
 - 「看護の日」イベントの紹介、外来診療担当医表
 - 第46号 8月3日発行
 - 歯科訪問診療の案内、糖尿病教室のお知らせ、外来診療担当医表
 - 第47号 10月18日発行
 - 骨密度測定装置の紹介、外来診療担当医表
 - 第48号 3月14日発行
 - 栄養サポートチーム（NST）の紹介、泌尿器科新任医師の紹介、病院機能再編について、
 - 外来診療担当医表

◆ 臨床検査精度管理委員会

- 委員長 富樫弘一
- 委員名 前田優子、澤渡雄二、藤原克徳、赤井 充
- 目的 臨床検査の精度管理事業を管理運営し、検査技術の向上を図り、検査データの信頼性を高める。
- 方針
 - 1 外部精度管理事業の評価を参考に検討改善する。
 - 2 内部精度管理：測定機器の点検保守、試薬管理を実施する。
 - 3 検査業務の円滑化、効率化を推進する。
- 活動内容・活動実績
 - 精度管理事業
 - *外部精度管理

6月	日本臨床検査技師会精度管理調査参加
7月	滋賀県臨床検査技師会精度管理調査参加
9月	日本医師会精度管理調査参加
不定期	各機器業者実施の精度管理を年1回実施
 - *内部精度管理
 定期的に各機器にて実施
 - 委員会

5月	令和元年度精度管理事業計画
7月	メーカーサーベイ結果報告
9月	日本臨床検査精度管理結果報告 (A+B 評価 94.9%)
1月	滋賀県臨床検査精度管理結果報告 (A+B 評価 93.9%)
3月	日本医師会精度管理結果報告 (評価点 95.6点)

◆ 職員安全衛生委員会

- 委員長 東野克巳
- 委員名 清水真也、桐畑明美、田中正樹、北川裕之、前田浩一、脇坂雄輝、藤井翔太、川崎真弓、久保田あゆみ、改田智子(事務局)
- 目的 労働安全衛生法に基づき、職員の職場における安全と健康を確保するとともに快適な作業環境の形成を図るために必要な事項を調査審議します。
- 活動方針 定期的に委員会を開催し、積極的に職場環境の把握を行い、職員の安全衛生、方策改善策を審議します。
- 活動内容・活動実績
 - 職員健康診断、予防接種の実施について検討
 - 針刺し事故やその他公務災害の報告及び審議、再発防止対策の検討
 - 職種別の休暇の取得状況、残業時間などの労働環境についての調査及び審議
 - 職場巡視及び巡視結果についての審議
 - ストレスチェック結果についての審議
 - 毎月最終火曜日 16:30～職場巡視 17:00～定例委員会

◆ 医療ガス安全委員会

- 委員長 朝倉 透
- 委員名 富樫弘一、南部里香、矢守聡美、秋野あけみ、藤井翔太、横井昌裕、柴田慎治(事務局)
- 目的 医療ガス(酸素、亜酸化窒素、治療用空気、吸引、二酸化炭素、手術機器駆動用窒素等をいう。)設備の安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的とする。
- 活動方針
 - (1) 病院内の各部門に医療ガスに関する知識を普及し、啓発に努めること。
 - (2) その他医療ガスに関する事項
- 活動内容・活動実績 活動実績なし

◆ 化学療法検討委員会

- 委員長 富樫弘一
- 委員 山之内義尚(副委員長)、納谷佳男、久保田あゆみ、三國宏子、槇田浩一、堀 順子(事務局)
- 目的 院内での化学療法を安全かつ適正に遂行する。
- 活動方針 チーム医療の一環として医師を初めとするさまざまな職種が共同で、患者さまに安心・安全な抗がん剤治療を受けて頂けるように努めます。
 - *化学療法レジメンの審査・登録
 - *抗がん剤の管理、調製、払い出し、施注などの運用にかかる取り決め
 - *副作用に対する周知、対応
- 活動内容・活動実績
 - *令和元年10月28日 第23回化学療法検討委員会
 - 1. 令和元年度の化学療法委員会 委員について
 - 2. 抗がん剤曝露時の対応フローチャートの新規作成について
 - *令和2年3月14日
 - 1. 令和元年度外来化学療法混注実績報告
 - 2. 新規レジメン検討

内科 HER2 陽性胃癌 1 次治療

Tmab+SOX

切除不能進行再発大腸癌 3 次治療

スチバーガ

泌尿器科 膀胱癌

d dMVAC 療法

3. 外来化学療法日誌作成について検討しました。平成 31 年 1 月より運用開始しました。

○ 湖北やすらぎの里委員会

会議等の名称	参加職種	実施状況	会議等の主な内容	
研修教育委員会	看護 介護職員	月 1 回	職員の資質向上をはかるための施設内研修の立案・実施します	
安全管理委員会	全職種	月 1 回	報告を分析し、事故防止に努めます	
サービス担当者会議	全職種	毎週 1 回	他職種が利用者ならびに家族の情報を共有し、連携してケアプランを見直し、精度向上に努めます	
権利擁護 身体拘束廃止委員会	全職種	月 1 回	施設におけるケア全体の質の向上や生活環境の改善をはかります	
感染管理 環境整備委員会	看護 介護職員	月 1 回	施設内感染の予防をはかるとともに、職員の感染に対する意識を高めます	
褥瘡予防対策委員会	看護 介護職員	月 1 回	褥瘡予防・対策を検討し、周知徹底をはかります	
口腔機能向上委員会	全職種	月 1 回	施設における口腔ケアの推進、充実をはかります	
老健運営会議	全職種	月 1 回	施設運営に関する問題の共有とその解決策を協議します	
苦情解決会議	全職種	随 時	苦情発生時の検討、対応について協議します	
リーダーケア会議	看護 介護職員	月 1 回	職種間のケアに関する情報の共有・意見調整を行います	
ケア向上委員会	介護職員	月 1 回	介護士間の情報・知識・技術向上に努めます	
看護師会	看護職員	月 1 回	利用者の健康状態の向上を目指し看護師間の情報・知識・技術向上に努めます	
身体拘束廃止委員会	全職種	月 1 回	運営会	権利擁護・身体拘束委員会の検討事項を施設全体で協議します
事故防止委員会	全職種	月 1 回	運営会	事故防止について、施設全体で協議します
将来計画委員会	全職種	月 1 回	運営会	やすらぎの里の将来計画について検討します
入所検討会議	全職種	月 1 回	運営会	入所待機者の入所順位の決定します
備 考	給食委員会・人権教育委員会・個人情報保護委員会・労働安全衛生委員会・防災委員会・年報委員会は、湖北病院と合同で実施します。			

3. 経営状況

(1) 経営収支比較

区 分		令和元年度	平成30年度	増 減	対前年度比
収 入	1 入 院 収 益	1,299,133 千円	1,192,470 千円	106,663 千円	108.9 %
	入 院 診 療 収 入	1,228,843	1,127,442	101,401	109.0
	給 食 料 収 入	70,290	65,028	5,262	108.1
	2 外 来 収 益	821,249	810,135	11,114	101.4
	3 そ の 他 医 業 収 益	105,733	116,660	△ 10,927	90.6
	4 受 取 利 息 配 当 金	3	3	0	100.0
	5 補 助 金	5,144	5,280	△ 136	97.4
	6 負 担 金 交 付 金	435,356	381,812	53,544	114.0
	7 院 内 保 育 所 収 益	22	8	14	275.0
	8 訪問看護ステーション収益	50,123	49,420	703	101.4
	9 長 期 前 受 金 戻 入	36,137	46,040	△ 9,903	78.5
	10 そ の 他 医 業 外 収 益	41,544	42,649	△ 1,105	97.4
	11 特 別 利 益	797	22,242	△ 21,445	3.6
	収 入 合 計	2,795,241	2,666,719	128,522	104.8
支 出	12 給 与 費	1,678,504	1,631,445	47,059	102.9
	給 料	566,501	567,011	△ 510	99.9
	諸 手 当	374,770	383,955	△ 9,185	97.6
	賃 金	326,607	308,248	18,359	106.0
	そ の 他	410,626	372,231	38,395	110.3
	13 材 料 費	360,733	361,919	△ 1,186	99.7
	薬 品 費	181,083	183,880	△ 2,797	98.5
	診 療 材 料 費	149,269	150,444	△ 1,175	99.2
	給 食 材 料 費	27,427	24,292	3,135	112.9
	医 療 消 耗 備 品 費	2,954	3,303	△ 349	89.4
	14 経 費	433,931	475,372	△ 41,441	91.3
	15 支払利息及び企業債取扱諸費	24,007	25,653	△ 1,646	93.6
	16 長 期 前 払 消 費 税 償 却	3,887	3,887	0	100.0
	17 院 内 保 育 所 費	7	486	△ 479	1.4
	18 訪問看護ステーション費	50,389	49,590	799	101.6
	19 そ の 他 支 出	327,910	320,832	7,078	102.2
	20 特 別 損 失	797	22,242	△ 21,445	3.6
	支 出 合 計	2,880,165	2,891,426	△ 11,261	99.6

(2) 貸借対照表

(令和2年3月31日)

借 方			貸 方	
科 目	金 額		科 目	金 額
		円		円
固 定 資 産		2,499,634,936	固 定 負 債	1,750,005,055
有 形 固 定 資 産		2,419,691,100	企 業 債	1,048,260,252
土 地		396,367,437	引 当 金	701,744,803
建 物	4,214,406,035		退職給付引当金	701,744,803
建物 減価償却累計額	2,623,987,210	1,590,418,825	修 繕 引 当 金	0
構 築 物	323,780,854		流 動 負 債	595,203,060
構築物 減価償却累計額	206,383,098	117,397,756	一 時 借 入 金	100,000,000
器 械 及 び 備 品	1,373,074,393		企 業 債	147,165,469
器械及び備品 減価償却累計額	1,062,507,763	310,566,630	未 払 金	225,018,554
車 両	10,503,590		引 当 金	110,225,727
車両 減価償却累計額	5,563,138	4,940,452	賞 与 引 当 金	95,480,299
無 形 固 定 資 産		1,851,604	法定福利費引当金	14,745,428
電 話 加 入 権		1,851,604	そ の 他 流 動 負 債	12,793,310
投 資		78,092,232	繰 延 収 益	480,042,002
長 期 貸 付 金		49,885,681	長 期 前 受 金	1,742,136,028
長期前払消費税		27,224,551	収 益 化 累 計 額	△ 1,262,094,026
そ の 他 投 資		982,000	資 本 金	1,349,610,732
流 動 資 産		511,936,778	剰 余 金	△ 1,163,289,135
現 金 預 金		120,743,661	資 本 剰 余 金	5,168,401
未 収 金		375,614,770	寄 付 金	74,752
貯 蔵 品		15,578,347	補 助 金	5,093,649
			欠 損 金	1,168,457,536
合 計		3,011,571,714	合 計	3,011,571,714

(3) 経営状況①

(単位：千円)

決算状況	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
総収益	2,795,241	2,666,719	2,637,266	2,509,414	2,571,836	2,356,113
経常収益	2,794,444	2,644,477	2,637,266	2,504,758	2,557,290	2,331,407
医業収益	2,226,115	2,119,266	2,127,658	2,010,946	2,005,054	1,790,057
他会計繰入金	435,356	381,812	357,257	349,643	360,594	367,424
総費用	2,880,165	2,891,426	2,765,274	2,719,581	2,622,502	3,096,612
経常費用	2,879,368	2,869,184	2,765,274	2,705,240	2,569,202	2,464,900
医業費用	2,677,618	2,703,813	2,614,929	2,541,417	2,410,139	2,324,086
職員給与費	1,678,504	1,631,445	1,575,976	1,581,316	1,463,376	1,398,794
材料費	360,733	361,919	349,044	333,114	337,221	302,015
減価償却費	195,531	222,614	235,378	201,999	195,854	206,982
支払利息	24,007	25,653	27,494	29,142	30,931	32,964
純損益	△ 84,924	△ 224,707	△ 128,008	△ 210,167	△ 50,666	△ 740,499
累積欠損金	1,168,457	1,083,533	858,826	730,818	520,651	469,985

(4) 経営指標

経営指標	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
総収支比率%	97.05	92.23	95.37	92.27	98.07	76.09
経常収支比率%	97.05	92.17	95.37	92.59	99.54	94.58
医業収支比率%	83.14	78.38	81.37	79.13	83.19	77.02
他会計繰入金対医業収益比率%	19.56	18.02	16.79	17.39	17.98	20.53
職員給与費対医業収益比率%	75.40	76.98	74.07	78.64	72.98	78.14
材料費対医業収益比率%	16.20	17.08	16.41	16.57	16.82	16.87
病床数（年度末現在）	140	140	153	153	153	153
病床利用率%	82.05	75.53	72.53	68.18	69.02	58.85
入院患者数	年延数	42,044	38,596	40,505	38,074	38,651
(人)	1日平均	115	106	111	104	106
外来患者数	年延数	69,132	70,747	71,877	74,368	75,843
(人)	1日平均	288	294	295	306	308
外来入院比率%	164.43	183.30	177.45	195.32	196.23	225.03
患者1人1日 当たり診療収入 (円)	入院	30,899	30,896	30,491	29,934	30,558
	外来	11,879	11,451	11,281	10,464	10,045
診療収入 (千円)	入院	1,299,133	1,192,470	1,235,018	1,139,689	1,181,089
	外来	821,249	810,135	810,844	778,214	761,866

(5) 資本的収入および支出（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）

収 入

区 分	予 算 額					
	当初予算額	補正予算額	小 計	地方公営企業法 第26条の規定に よる繰越額に係 る財源充当額	継続費通次 繰越額に係る 財源充当額	合 計
第1款 資本的収入	円 160,827,000	円 △ 3403000	円 157,424,000	円 0	円 0	円 157,424,000
第1項 企業債	117,000,000	0	117,000,000	0	0	117,000,000
第2項 出資金	42,627,000	△ 3403000	39,224,000	0	0	39,224,000
第3項 投資返戻金	1,200,000	0	1,200,000	0	0	1,200,000

決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	備 考
円 85,045,665	円 △ 72,378,335	円
41,000,000	76,000,000	
39,224,000	0	
4,821,665	△ 3,621,665	

支 出

区 分	予 算 額						
	当初予算額	補 正 予 算 額	流 用 増 減 額	小 計	地方公営企業法 第26条の規定に よる繰越額	継 続 費 次 額 繰 越	合 計
	円	円	円	円	円	円	円
第1款 資本的支出	261,302,000	△ 3403000	0	257,899,000	0	0	257,899,000
第1項 建設改良費	117,222,000	△ 3403000	0	113,819,000	0	0	113,819,000
第2項 企業債償還金	124,710,000	0	0	124,710,000	0	0	124,710,000
第3項 投 資	19,350,000	0	0	19,350,000	0	0	19,350,000
第4項 補助金消費税返還金	20,000	0	0	20,000	0	0	20,000

資本的収入額が資本的支出額に不足する額47,856,606円は損益勘定留保資金で補てんした。

決 算 額	翌年度繰越額				不 用 額	備 考
	地方公営企業法 第26条の規定に よる繰越額	継続 繰越	費次 額	合 計		
円 190,612,394	円 0		円 0	円 0	円 67,286,606	円
54,653,554	0		0	0	59,165,446	(4,249,828)
124,708,840	0		0	0	1,160	
11,250,000	0		0	0	8,100,000	
0	0		0	0	20,000	

()は、仮払消費税

4. 各種統計

○ 湖北病院

(1) 職員数

<令和2年3月31日現在>

(単位：人)

	医 師	看護師	准看護師	保 健 師	助産師	看護助手	薬剤師	放射線技師	臨床検査技師	理学療法士	作業療法士	視能訓練士
正規職員	13	87	6	2	0	0	8	6	5	4	4	0
臨時職員	1	32	9	0	0	24	0	1	1	1	0	1

	言語聴覚士	臨床工学技師	歯科衛生士	管理栄養士	調理師	調理師補助	託児所保育士	事務員	介護福祉士	介護職員	その他	計
正規職員	2	4	2	2	0	0	0	15	10	0	0	170
臨時職員	0	0	2	0	0	0	0	18	1	0	8	99

<平成31年3月31日現在>

(単位：人)

	医 師	看護師	准看護師	保健師	助産師	看護助手	薬剤師	放射線技師	臨床検査技師	理学療法士	作業療法士	視能訓練士
正規職員	12	78	7	0	0	0	7	6	4	4	2	0
臨時職員	1	28	7	3	0	23	0	1	1	1	0	1

	言語聴覚士	臨床工学技師	歯科衛生士	管理栄養士	調理師	調理師補助	託児所保育士	事務員	介護福祉士	介護職員	その他	計
正規職員	2	4	2	2	0	0	0	16	4	6	1	157
臨時職員	0	0	1	0	0	0	3	14	0	1	8	93

(2) 各科別延患者数

<入院>

(単位：人)

	内 科	神経内科	小 児 科	外 科	整形外科	皮 膚 科	泌尿器科	婦 人 科	眼 科
令和元年度	28,983	0	0	0	4,307	520	7,937	0	164
平成30年度	15,564	0	0	0	3,112	508	2,819	0	174

耳鼻いんこう科	麻 酔 科	歯科口腔外科	小 計	療養病棟	計
0	0	133	42,044	17,911	59,955
0	0	116	22,293	16,303	38,596

<外来>

(単位：人)

	内 科	神経内科	小 児 科	外 科	整形外科	皮 膚 科	泌尿器科	婦 人 科	眼 科
令和元年度	21,702	476	1,738	131	9,045	4,883	14,639	520	3,830
平成30年度	23,599	557	1,964	305	8,863	4,746	13,967	371	3,967

耳鼻いんこう科	麻 酔 科	歯科口腔外科	精 神 科	中河内診療所	杉野診療所	金居原診療所	計
3,987	315	5,088	1,860	230	428	260	69,132
4,358	349	4,848	1,730	250	564	309	70,747

(3) 各科一日平均患者数

<入院>

(単位：人)

	内 科	神経内科	小 児 科	外 科	整形外科	皮 膚 科	泌尿器科	婦 人 科	眼 科
令和元年度	44	0	0	0	12	1	8	0	0
平成30年度	43	0	0	0	9	1	8	0	0

耳鼻いんこう科	麻 酔 科	歯科口腔外科	小 計	療養病棟	計
0	0	0	65	49	114
0	0	0	61	45	106

<外来>

(単位：人)

	内 科	神経内科	小 児 科	外 科	整形外科	皮 膚 科	泌尿器科	婦 人 科	眼 科
令和元年度	90	2	7	1	38	20	61	2	16
平成30年度	98	2	8	1	37	20	58	2	17

耳鼻いんこう科	麻 酔 科	歯科口腔外科	精 神 科	中河内診療所	杉野診療所	金居原診療所	計
17	1	21	8	1	2	1	288
18	2	20	7	1	2	1	294

(4) 地区別患者数

<入院>

(単位：人)

地 区 名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	割 合	前年度	増減
長 浜 市	3,109	3,316	3,116	3,527	3,755	3,265	3,671	3,613	3,671	3,667	2,907	3,254	40,871	97.21%	36,968	3,903
旧伊香郡	2,428	2,739	2,462	2,786	3,046	2,517	2,928	2,801	2,907	2,888	2,244	2,619	32,365	76.98%	29,328	3,037
木之本町	1,029	1,179	1,154	1,267	1,328	1,136	1,133	1,165	1,177	1,226	959	1,052	13,805	32.83%	11,207	2,598
高 月 町	545	725	484	458	690	644	852	693	706	592	543	552	7,484	17.80%	6,864	620
余 呉 町	491	451	428	550	494	325	417	452	465	471	337	475	5,356	12.74%	5,899	-543
西浅井町	363	384	396	511	534	412	526	491	559	599	405	540	5,720	13.60%	5,358	362
旧東浅井郡	336	271	238	380	360	392	387	423	337	341	333	308	4,106	9.77%	2,950	1,156
湖 北 町	260	209	178	308	292	302	291	323	293	294	291	268	3,309	7.87%	1,968	1,341
虎 姫 町	76	62	60	72	68	90	96	100	44	47	42	40	797	1.90%	982	-185
長 浜 市	345	306	416	361	349	356	356	389	427	438	330	327	4,400	10.47%	4,690	-290
旧長浜市	222	176	241	227	212	249	175	187	212	202	164	203	2,470	5.87%	2,664	-194
浅 井 町	93	93	115	98	103	54	125	105	122	102	72	62	1,144	2.72%	1,115	29
びわ町	30	37	60	36	34	53	56	97	93	134	94	62	786	1.87%	911	-125
米 原 市	60	62	47	33	36	32	30	14	14	4	29	16	377	0.90%	493	-116
近 江 町						2							2	0.00%	6	-4
米 原 町				2	31	30	30		2				95	0.23%	34	61
山 東 町	30	31	30	31	5			14	12	4	29	14	200	0.48%	86	114
伊 吹 町	30	31	17									2	80	0.19%	367	-287
高 島 市	54	17	19	6	14		17	25	40	4	10	19	225	0.54%	223	2
マキノ町	42	17	15	6	12			25	40	4	4		165	0.39%	118	47
今 津 町	12		4									11	27	0.06%	64	-37
新 旭 町					2						6	8	16	0.04%	31	-15
安曇川町							17						17	0.04%	10	7
高 島 町																
朽 木 村																
他 県 内	30	31	8	3							2		74	0.18%	423	-349
県 外	37	44	42	32	45	32	44	63	55	31	31	41	497	1.18%	489	8
合 計	3,290	3,470	3,232	3,601	3,850	3,329	3,762	3,715	3,780	3,706	2,979	3,330	42,044	100.00%	38,596	3,448

<外来>

(単位：人)

地 区 名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	割 合	前年度	増減
長 浜 市	5,602	5,566	5,881	5,839	5,852	5,373	5,578	5,713	5,730	5,281	5,040	5,405	66,860	1	68,467	-1,607
旧伊香郡	5,011	4,996	5,225	5,256	5,218	4,838	5,001	5,203	5,148	4,704	4,504	4,861	59,965	86.74%	61,709	-1,744
木之本町	2,295	2,287	2,331	2,370	2,443	2,286	2,340	2,406	2,324	2,109	2,067	2,209	27,467	39.73%	28,714	-1,247
高 月 町	960	999	1,043	1,071	1,059	906	984	1,092	1,126	1,040	973	1,023	12,276	17.76%	11,818	458
余 呉 町	993	961	1,078	1,014	950	930	926	931	972	824	801	860	11,240	16.26%	11,949	-709
西浅井町	763	749	773	801	766	716	751	774	726	731	663	769	8,982	12.99%	9,228	-246
旧東浅井郡	296	267	297	296	288	247	260	231	278	259	230	265	3,214	4.65%	2,950	264
湖 北 町	240	212	236	226	230	195	211	178	229	202	180	220	2,559	3.70%	2,506	53
虎 姫 町	56	55	61	70	58	52	49	53	49	57	50	45	655	0.95%	444	211
長 浜 市	295	303	359	287	346	288	317	279	304	318	306	279	3,681	5.32%	3,808	-127
旧長浜市	187	192	224	182	204	186	187	182	188	195	182	164	2,273	3.29%	2,283	-10
浅 井 町	76	81	93	63	77	60	75	43	65	75	76	70	854	1.24%	932	-78
び わ 町	32	30	42	42	65	42	55	54	51	48	48	45	554	0.80%	593	-39
米 原 市	26	23	40	28	43	37	32	22	41	17	30	24	363	0.53%	398	-35
近 江 町	6	8	15	8	12	7	6	3	9	3	3	6	86	0.12%	133	-47
米 原 町	5	5	6	8	5	9	7	4	12	5	7	2	75	0.11%	73	2
山 東 町	11	8	15	8	21	17	12	12	17	8	15	11	155	0.22%	150	5
伊 吹 町	4	2	4	4	5	4	7	3	3	1	5	5	47	0.07%	42	5
高 島 市	63	52	57	42	46	36	32	63	46	43	42	40	562	0.81%	485	77
マキノ町	41	34	38	32	37	27	23	50	33	29	33	32	409	0.59%	314	95
今 津 町	15	13	11	5	4	6	6	6	7	7	6	3	89	0.13%	133	-44
新 旭 町	2	4	5	4	1	1	1	5	1		1		25	0.04%	12	13
安曇川町	1		3	1	2	1	2	2	5	7	2	5	31	0.04%	21	10
高 島 町	4	1			2	1							8	0.01%	5	3
朽 木 村																
他 県 内	26	37	30	35	31	24	31	41	32	44	34	29	394	0.57%	433	-39
県 外	85	82	66	86	106	81	77	78	70	81	76	65	953	1.38%	964	-11
合 計	5,802	5,760	6,074	6,030	6,078	5,551	5,750	5,917	5,919	5,466	5,222	5,563	69,132	100.00%	70,747	-1,615

(5) 診療科別救急患者数

<令和元年度>

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
内 科	199	245	178	213	245	168	170	178	222	259	150	104	2,331
外 科	9	10	6	7	6	8	11	14	9	11	5	11	107
婦 人 科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
小 児 科	7	7	3	11	6	10	7	2	13	22	11	4	103
耳鼻いんこう科	3	3	1	2	4	10	4	1	2	2	4	0	36
整形外科	28	24	19	31	25	32	33	26	32	18	23	19	310
皮 膚 科	15	29	18	36	58	32	22	18	10	8	6	3	255
泌尿器科	7	36	18	18	14	24	11	15	29	17	20	10	219
眼 科	5	5	7	4	3	3	4	11	5	4	3	0	54
歯科口腔外科	1	1	1	4	0	0	6	3	4	2	0	2	24
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精 神 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 酔 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	274	360	251	327	361	287	268	268	326	343	222	153	3,440

<平成30年度>

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
内 科	152	199	159	216	210	162	148	186	190	362	196	175	2,355
外 科	10	8	14	15	18	15	10	11	7	6	6	10	130
婦 人 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 児 科	6	13	12	14	16	5	16	14	12	16	14	3	141
耳鼻いんこう科	0	1	1	3	2	4	1	6	5	1	1	3	28
整形外科	23	34	18	13	27	25	29	22	24	15	23	22	275
皮 膚 科	9	10	17	32	30	20	11	16	4	3	10	3	165
泌尿器科	8	9	5	16	18	23	15	15	30	13	13	9	174
眼 科	2	1	1	7	1	5	2	3	5	2	7	5	41
歯科口腔外科	4	1	3	2	6	4	1	0	4	0	0	0	25
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精 神 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 酔 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	214	276	230	318	328	263	233	273	281	418	270	230	3,334

(6) 手術件数

(単位：件)

	内 科	外 科	婦人科	整形外科	皮膚科	眼 科	泌尿器科	歯科口腔外科	麻酔科	合 計
令和元年度	0	0	0	23	51	84	149	0	0	307
平成30年度	0	0	0	15	62	89	179	0	0	345

(7) 臨床検査件数

(単位：件)

	一般検査	血液検査	化学・免疫検査	輸血検査	細菌検査	生理検査	病理検査	合 計
令和元年度	14,298	45,530	331,045	91	4,559	4,566	1,505	401,594
平成30年度	14,572	46,473	335,486	95	4,391	5,136	1,431	407,584

(8) 調剤関連数

(単位：枚)

	院内処方(外来)	院内処方(入院)	院内処方(老健)	院外処方	注射(入院)	TPNミキシング	化学療法
令和元年度	2,800	18,332	1,520	42,473	26,525	2,063	216
平成30年度	3,026	17,071	1,779	43,938	24,984	1,702	173

(9) 内視鏡検査件数

(単位：件)

	上 部	下 部	E R C P	合 計
令和元年度	1,654	644	28	2,326
平成30年度	1,890	781	42	2,713

(10) 放射線検査件数

(単位：件)

	一般撮影	特殊撮影	断層撮影	乳房撮影	C T	M R I	A G	骨密度測定	合 計
令和元年度	9,609	568	381	87	4,428	2,215	91	1,365	18,744
平成30年度	9,906	469	388	112	4,769	2,254	87	1,114	19,099

(1 1) 死亡者数と剖検数

	院内死亡者数	剖 検 数
令和元年度	181 人	0 件
平成30年度	189 人	0 件

(1 2) 一般病棟利用状況

	病 床 数	年延病床数	年延入院患者数	病床利用率
令和元年度	140 床	51,240 床	42,044 人	82.1%
平成30年度	153 床	55,832 床	38,596 人	69.1%

※平成31年3月31日のみ140床

(1 3) リハビリテーション科利用件数

(単位：件)

	利用件数
令和元年度	14,764 件
平成30年度	15,326 件

(1 4) 主な購入医療機器および備品

名 称	配 置 場 所
X線骨密度測定装置	放射線技術科
X線TV撮影装置	放射線技術科
前立腺・膀胱切除用リトラクターファストシステム	手術室
血液培養自動分析装置	中央検査技術科
健診システム	健診センター
その他	

(1 5) 平均在院日数

一般病棟	14.1 日
療養病棟	159.7 日

○湖北やすらぎの里

(1) 職員数

＜令和２年３月３１日現在＞

(単位：人)

	理学療法士	作業療法士	看護師	准看護師	事務員	社会福祉士	介護職員	栄養士	その他	計
正規職員	3	1	6	1	3	1	20	1	0	36
臨時職員	0	0	1	1	0	0	7	0	22	31

＜平成３１年３月３１日現在＞

(単位：人)

	理学療法士	作業療法士	看護師	准看護師	事務員	社会福祉士	介護職員	栄養士	その他	計
正規職員	3	2	7	1	3	1	19	1	0	37
臨時職員	0	0	1	1	0	0	7	0	21	30

(2) 月別延療養者数

＜令和元年度＞

(単位：人，日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者延べ数	2,251	2,272	2,040	2,309	2,401	2,225	2,259	2,122	2,312	2,483	2,253	2,370	27,297
短期入所者延べ数	180	177	228	208	151	205	283	295	229	95	116	191	2,358
通所者数	149	170	176	157	149	163	168	175	146	147	146	151	1,897
実施日数	20	19	22	21	21	18	21	20	20	19	19	21	241

＜平成３０年度＞

(単位：人，日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者延べ数	2,363	2,368	2,168	2,318	2,379	2,192	2,200	2,245	2,463	2,474	2,180	2,432	27,782
短期入所者延べ数	160	198	212	206	157	162	240	231	143	117	136	165	2,127
通所者数	127	129	154	144	120	119	141	138	126	114	117	140	1,569
実施日数	20	19	22	21	21	18	21	20	19	19	19	21	240

(3) 一日平均療養者数

＜令和元年度＞

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数 (短期入所者数含む)	81.0	79.0	75.6	81.2	82.3	81.0	82.0	80.6	82.0	83.2	84.6	82.6	81.0
通所者数	7.5	8.9	8.0	7.5	7.1	9.1	8.0	8.8	7.3	7.7	7.7	7.2	7.9

＜平成３０年度＞

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数 (短期入所者数含む)	82.8	83.5	81.8	83.6	83.9	83.2	81.0	79.2	83.3	84.0	82.9	82.3	81.9
通所者数	6.4	6.8	7.0	6.9	5.7	6.6	6.7	6.9	6.6	6.0	6.2	6.7	6.5

(4) 療養床利用状況

	療養床数	年延療養床数	年延入所者数	利用率
令和元年度	84床	30,744床	29,655人	96.5%
平成30年度	84床	30,660床	29,909人	97.6%

編 集 後 記

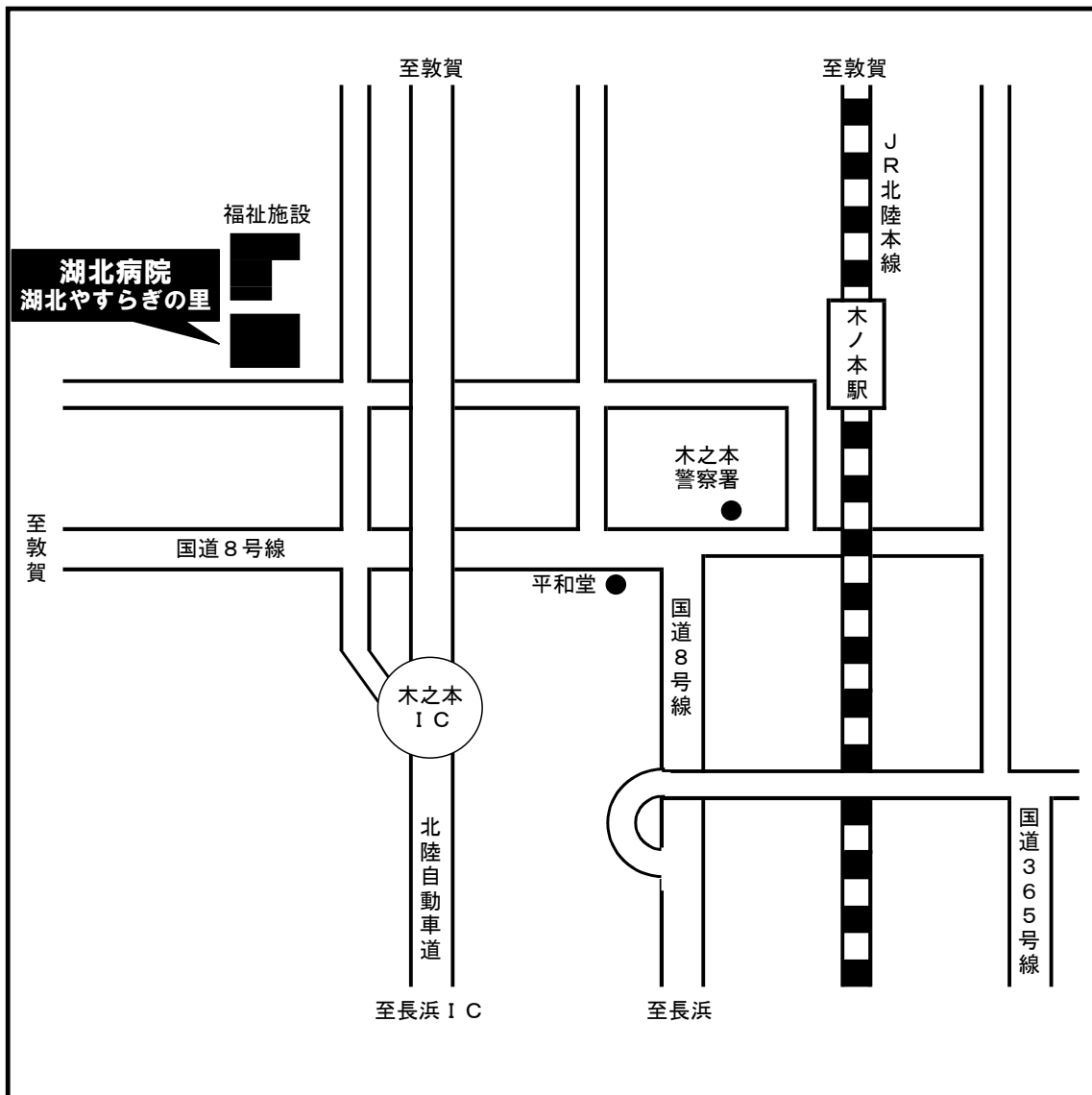
当院は、県下でも歴史のある病院で、平成２７年には創立１００周年という節目を迎えました。私たち自身、この歴史ある病院に勤務することができ、誇りと喜びを感じております。

院長をはじめ、諸先輩方が長年築かれた業績は、大変素晴らしいものがあります。

私たち一人ひとりが、これまでの歴史と伝統を受け継ぎ、今後も地域医療の発展に貢献できるよう思いを新たにします。

これからも、地域に愛され、信頼される病院・施設づくりに努めてまいりますので、皆さまのご指導をお願いいたします。

令和元年度
編集委員一同



私たちは、地域医療を確保し、
医療・福祉・介護に切れ目のない
連携体制が提供できる病院を目指します。

